科目名:相談援助	担当者:新沼　英明,川上　知幸,井川　淳史	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】ソーシャルワーカー（社会福祉士）
行政機関でのソーシャルワーカー（社会福祉士）としての経験から、児童や家庭への支援の実際を紹介しつつ、相談援助をする際の基本的な心構えや技術について、その理論と方法をより実際に即した事例を参考にしながら理解することができる。

保育所や児童福祉施設において行う相談援助の理論と方法について学ぶ。特にソーシャルワークの原理と展開過程を具体的な事例も交えながら実践的に理解する。

授業の到達目標
１．相談援助の今日的な意義について、その必要性を説明できる。
２．相談援助の方法と技術について理解し、実践できる。
３．相談援助の具体的展開について理解できる。
４．保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して援助対象者へ共感的理解を示すことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
「社会福祉」や「児童家庭福祉」で学修した内容を土台とした演習科目である。したがって、それら関連科目のテキスト等を振り返り、授業を受けることが望ましい。その上で、各回の授業前にそのテーマに即した新聞記事等の資料（事前に提示）に目をとおし、自らの考えを整理して授業に臨むこと。授業後はそのテーマがどのように保育現場の実践に役立つのか、簡単にまとめること。

評価方法
授業内で課す課題レポート80%、受講態度、演習への参加状況20%を基本として総合的に評価する。

教科書	参考図書
なし（各回、プリントを配布する。）	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
B5版専用ファイルを用意し、資料を整理すること。

01	オリエンテーション、相談援助を学ぶ意義
02	子どもの権利と相談援助
03	演習：困窮家庭へのソーシャルワークアプローチ（1）児童虐待を中心に
04	演習：困窮家庭へのソーシャルワークアプローチ（2）貧困問題の理解
05	ソーシャルワークの定義と体系１（概論）
06	ソーシャルワークの定義と体系２（ケースワークの概要）
07	ソーシャルワークの定義と体系３（グループワークの概要）
08	ソーシャルワークの定義と体系４（関連援助技術の概要）
09	ケースワークの展開過程１（バイスティックの７原則）
10	ケースワークの展開過程２（信頼関係の形成）
11	グループワークの展開過程
12	コミュニティーワークの展開過程
13	事例検討１（個別援助計画）
14	事例検討２（保育者の自己覚知とメンタルヘルス）
15	保護者支援の今日的課題とまとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:教育原理	担当者:小栁　雅子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
皆さんは、これまで自分たちが受けてきた「教育」が自分自身にとってどのような意味を持っているのか考えたことはありますか。今後、皆さんが保育者として行っていく教育の「意味」や「目的」「方法」、さらには保育現場における自分たちの役割等について、この授業で学んでいきましょう。

授業の到達目標
①教育にかかわる基本的な理念・概念について理解する。
②教育の歴史的変遷や思想を知る。
③我が国における現代の教育システムを理解する。
④現代の教育が抱える課題とそれに対する教育者（保育者）の役割を考えることができる。
以上４点を本授業の到達目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業にかかわる準備学修は必要ありません。ただし事後学修として、授業内で学んだことを復習し、関連事項や教育・保育にかかわる最新情報に、新聞やインターネット、本などで触れるようにしましょう。また、それらについて「自分自身の意見を持つ」ことができるようにしてください。

評価方法
①第１回～14回の授業で実施する授業内課題（10点×14回＝140点）と②第15回で実施する確認試験（100点）の合計点（240点）を総合評価します。うち60％（144点）を本科目の単位取得に要する最低点とします。

教科書	参考図書
テキストを配布するのでそれを毎回持参してください。	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業は講義形式で進みますが、単に教員の話を聞くだけではなく、学んだ事柄について自分なりの疑問や意見を持つことが大切です。なお、連絡等の必要性がある場合は担当教員の研究室までお越しください。

01	授業オリエンテーション＋自分たちが受けてきた教育を振り返る
02	教育とは何か①－人間にとっての教育の必要性
03	教育とは何か②－「教えること」と「学ぶこと」の関係性
04	教育とは何か③－家庭教育と学校教育
05	教育とは何か④－現代における教育の意味と教育者（保育者）の役割
06	教育の重要な要素①－子ども観の変遷と教育を受ける権利の重要性
07	教育の重要な要素②－教育の「目的」「内容」「方法」の関係性
08	教育の重要な要素③－教育者（保育者）の専門性
09	教育および教育思想の歴史的変遷①－欧米
10	教育および教育思想の歴史的変遷②－日本
11	我が国の教育システムと制度①－就学前教育から高等教育までの仕組み
12	我が国の教育システムと制度②－公教育を支える制度と行政機関
13	教育を取り巻く現代的課題①－子どもの貧困と教育
14	教育を取り巻く現代的課題②－ゆとり教育の正体と今後必要とされる学力
15	確認試験＋最終講義ーこれからを生きる教育者（保育者）として
16	なし

2019年度シラバス

科目名:教育関係法規	担当者:小栁　雅子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
法規（ルール）は常に我々の周りに存在し、日々の生活に様々な影響を与えています。教育（保育）についてもそれは同じです。この授業では現代教育を支える制度について知り、それを踏まえた上で園での教育（保育）活動を円滑に行うための要件について学習していきます。また現在特に求められている地域との関係性づくりや危機管理の取り組みについて、その意義や具体的な在り方について学んでいきます。

授業の到達目標
①現代の教育システムとそれを支える制度について理解する。
②園の経営にかかわる事項（組織論・リーダーシップ論）等について理解する。
③地域と縁の関係性づくりについて理解する。
④園での危機管理の在り方について知る。以上４点を本授業の到達目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回の授業にかかわる準備学修は必要ありません。ただし事後学修として、授業内で学んだことを復習し、関連事項や教育・保育にかかわる最新情報に、新聞やインターネット、本などで触れるようにしましょう。また、それらについて「自分自身の意見を持つ」ことができるようにしてください。

評価方法
①第１回～14回の授業で実施する授業内課題（10点×14回＝140点）と②第15回で実施する確認試験（100点）の合計点（240点）を総合評価します。うち60%（144点）を本科目の単位取得に要する最低点とします。

教科書	参考図書
テキストを配布しますので毎回の授業に持参してください。	教育六法、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業は講義形式で進みますが、単に教員の話を聞くだけではなく、学んだ事柄について自分なりの疑問や意見を持つことが大切です。なお、連絡等の必要性がある場合は担当教員の研究室までお越しください。

01	授業オリエンテーション＋教育にかかわる制度（法規）をどれくらい知っていますか
02	我が国における教育制度の体系と歴史的変遷
03	子どもの権利と教育制度をめぐる諸問題
04	我が国の教育行政システム①－中央教育行政
05	我が国の教育行政システム②－地方教育行政
06	諸外国の教育行政システムの特徴
07	近年の教育課題とそれに対応する教育政策
08	教育（保育）活動を充実させる方策①－園を組織としてとらえよう
09	教育（保育）活動を充実させる方策②－リーダーの役割を知ろう
10	現代における園の経営課題①－教育者（保育者）の労働実態と協働の在り方
11	現代における園の経営課題②－多様化する子どもと保護者への対応
12	現代における園の経営課題③－保護者・地域との連携と関係構築
13	園における危機管理①－安全教育と安全管理の基本的な考え
14	園における危機管理②－事例・判例から学ぶ具体的な危機管理の在り方
15	確認試験＋最終講義－教育者（保育者）に求められるリーガルマインド
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育カウンセリング	担当者:山下　直樹,岡本　加苗	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育カウンセラー　スクールカウンセラー
「保育カウンセリング」は、保育カウンセラー、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえ、保護者の子育て支援をすることがテーマになります。保育現場における実際的・実践的な授業となるよう事例による検討および、ロールプレイなど保育現場に即した授業内容となります。

保育者として必要となる、保育カウンセリングの基礎的な理論や具体的な方法を整理します。授業は、演習や事例を多く取り入れながら行います。みなさん自身で感じ、考えることで保育者として求められるカウンセリングマインドを学びます。

授業の到達目標
保育者として、保護者および子どもを理解し、子育てをいかに支えていくのかがテーマになります。また、保育者としての自分自身を理解することを目標としています。この授業では、ロールプレイやグループワークなど、より実践に近い形でカウンセリングマインドを身につけます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育の中にカウンセリングを生かすには、カウンセリングマインドの習得が欠かせません。授業で学んだことを基礎としながら、日常生活でも家族や友人と会話する際に、話された内容に積極的な関心を持ち、共感的に理解するよう実践することとします。

評価方法
授業への参加態度35%　毎時間のワークシート35%　　確認テスト30%

教科書 青木紀久代編著「実践・保育相談支援」株式会社みらい	参考図書 授業内で指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
臨床心理学やカウンセリングについての本など読んでみると、さらに視野が広がると思います。

01	保育カウンセリングとは何か：オリエンテーションと保育カウンセリングの概要
02	保育カウンセリングの基礎知識①：保育カウンセリングの理論と方法
03	保育カウンセリングの基礎知識②：地域資源の活用と関係機関との連携
04	保育カウンセリングの基礎知識③：保護者との関係づくりとカウンセリングマインド
05	保育カウンセリングの基礎知識④：受容と共感のカウンセリング体験
06	子ども理解とカウンセリングマインド①：芸術療法
07	子ども理解とカウンセリングマインド②：保育者の自己理解と他者理解―1
08	子ども理解とカウンセリングマインド③：保育者の自己理解と他者理解―2
09	子ども理解とカウンセリングマインド④：ストレスマネジメント
10	子ども理解とカウンセリングマインド⑤：子どものアセスメントと理解
11	保育カウンセリングの実際①：保護者の養育力向上を目指した支援
12	保育カウンセリングの実際②：苦情対応から始まる支援の実際
13	保育カウンセリングの実際③：障がいのある子どもを持つ保護者への支援の実際
14	保育カウンセリングの実際④：要保護児童の家庭に対する支援の実際
15	授業と確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:子どもの食と栄養	担当者:小川　雄二	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育者として必要な子どもの食と栄養についての専門知識を学び、それを基礎にして保育現場で食育を実践することができるスキルと将来にわたって学び続けることができる関心の広がりを身につけるための授業です。前期は子どもの食と栄養の基本的事項について系統的に学習します。後期は子どもの発達や食事形態に沿った演習とグループでの調理実習によって体験的・実践的に学びます。事前に配布されたレジュメにそって授業を進行します。

授業の到達目標
前期は講義と演習で「子どもの食と栄養」についての専門的知識を学び、後期は演習と実習で保育者として食事指導と食育に取組むことができる実践力を身につけます。具体的な目標としては①子どもの体の発育や摂食能力・食習慣の発達を理解すること、②食品の成分や栄養素の知識を確かなものにすること、③乳児期、離乳期、幼児期、学童期の栄養と発達の特徴を把握すること、④子どもの食に関わる諸問題とその対応を学ぶことです。その力を踏まえて、⑤保育園・幼稚園で子どもと保護者に対する食育に取組むための実践力を身につけます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内容を記載したプリントを事前に配布しますので準備学習に活用してください。保育実習・教育実習の際には子どもの給食、給食指導、おやつの様子や園での食育の取り組み、アレルギー対応の実際をよく見てきて下さい。保育園の食育計画についても見せてもらってください。授業で提示された課題やレポートにも取組んでください。さらに、ふだんの自分自身の食生活についても見直すとともに、栽培・収穫体験や食事を作ったりすることにも取組んで下さい。

評価方法
授業への参加態度40%　レポート10%、筆記試験50%

教科書
前期：『子どもの食と栄養』　小川雄二編著　建帛社
後期：『子どもの食と栄養演習書』　小川雄二編著　医歯薬出版

参考図書
保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	子どもの心身の健康と食生活
02	子どもの食生活の現状と課題
03	栄養の基本概念と栄養素の働きⅠ
04	栄養の基本概念と栄養素の働きⅡ
05	味覚と嗜好（味覚と嗜好の演習）
06	日本人の食事摂取基準
07	食品と献立作成の基礎知識
08	子どもの発育・発達と栄養
09	子どもの栄養と生理Ⅰ
10	子どもの栄養と生理Ⅱ
11	授乳期の意義と食生活
12	離乳期の意義と食生活
13	幼児期の意義と食生活
14	食育の基本と内容
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
16	乳児栄養演習
17	離乳食演習Ⅰ　離乳の進め方
18	離乳期演習Ⅱ(5～6 、7～8ケ月)
19	離乳期演習Ⅲ(9～11 、12～18ケ月)
20	幼児食演習Ⅰ（幼児期の栄養の特徴）
21	幼児食演習Ⅱ（幼児期の食事実践演習）
22	食物アレルギー演習Ⅰ
23	食物アレルギー演習Ⅱ
24	間食演習Ⅰ
25	間食演習Ⅱ
26	行事食演習Ⅰ
27	行事食演習Ⅱ
28	幼児期弁当演習
29	子どもの食と栄養総合演習

30	子どもの食と栄養総合演習
31	子どもの食と栄養のまとめ

科目名:子どもの心とからだⅢ	担当者:中島　志保	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの健康の保持・増進を目的とし、保育者としての専門的知識と養護の技術を理論的・実践的に修得します。また保育と子育ての専門家として、子どもや保護者に保育技術の支援や健康教育ができるよう指導力を身に付けます。演習は、子ども・保育者の安全を考慮し、視聴覚教材・教員による実演にて技術を具体的に示した後に実践・ふり返りをグループワークで行い、自分自身の課題と技術の向上、保育者間における協調について学びます。

授業の到達目標
１．乳幼児期の生活習慣形成における基礎的な養護技術を身に付ける。
２．子どもと保育者の安全を考慮し、準備および実践ができる。
３．子どもの緊急時における対応を理解し行動できる。
４．集団保育における健康管理・健康教育について理解し実施できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
＜準備学修＞配布資料を読み、演習内容・進め方を理解する。演習内容については更に参考図書などを積極的に読み、技術をイメージしておく。「健康教育」に必要な資料はグループで話し合い、授業日までに準備し、指導内容は各自が学習し正しい知識を提供できるようにしておく。1時間。※日頃から清潔な身だしなみ、手洗い、整理整頓ができるようにしておくこと。＜事後学修＞自分自身の技術をふり返り、今後の課題を明確にする。基本的技術は積み重ねのため、次の演習で実践できるように繰り返し練習する（授業日の火曜・木曜の昼放課可）。1時間。

評価方法
演習への参加態度50%、課題レポート20%、健康教育20%、実技確認テスト10%　グループの協調性も評価点に加味する。
演習時の身だしなみが不適切および忘れ物がある場合は演習に参加できない。

教科書	参考図書
資料を配布します。	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、他授業時に説明します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オリエンテーションで、演習内容（演習室の使い方や使用物品も含む）・身だしなみ・必要物品・注意点等を詳しく説明します。授業開始時間には身だしなみを整えて着席すること。授業の前後の時間に質問等の対応をします。

01	オリエンテーション、手洗い演習
02	乳児の抱き方・扱い方
03	衣服の着脱・おむつ交換
04	小児救急演習①：救急法、エピペンの実技演習
05	小児救急演習②：小児における一次救命処置の実技演習
06	バイタル測定、身体計測
07	沐浴①
08	沐浴②
09	歯科保健：はみがき演習
10	感染性嘔吐物の処置方法
11	運搬法：車椅子の取り扱い及び移送実技演習
12	医療保育①：健康教育の立案・教材の作成
13	医療保育②：健康教育　発表
14	医療保育③：健康教育　発表
15	実技確認テスト、まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:家庭支援論	担当者:吉見　昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業では高度で実践的な保育と子育ての専門家を目指して、子育て中の家庭支援の現状を理解し、その支援の方法について教科書やビデオ等を通して学びます。授業の方法は、授業中に適宜課題を提示した上で、アクティブ・ラーニングで意見交換や発表をしてもらいます。また回収した課題（用紙）は翌週に押印もしくはコメントの上、返却します。なお、座席は指定し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用します。

授業の到達目標
１　家庭を取り巻く社会状況について理解した上で、なぜ家庭支援が必要か述べることができる
２　家庭における人間関係について課題を含めて理解した上でどのような支援が必要か理解できる
３　さまざまな子育て支援について理解し、具体的な支援の方法について自分の意見を述べることができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読んでおいて下さい（授業毎に１時間）。事後学修として教科書で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後に授業の内容をまとめた用紙を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を60%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
家庭支援論ワークブック（吉見昌弘著　三恵社）	授業中に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	家庭支援の必要性　－家庭を取り巻く状況－
03	地域社会の変容と家庭支援
04	核家族化と家族意識からみた家庭支援
05	現代の家庭における人間関係　－母子関係－
06	現代の家庭における人間関係　－父子関係－
07	男女共同参画社会とワークライフバランス
08	地域社会における家庭支援
09	保育者による保護者への家庭支援
10	子育て支援施策の現状
11	保育所・児童館などにおける子育て支援
12	多様な子育て支援の展開
13	ITによる子育て支援
14	病児保育による子育て支援
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と健康」	担当者:渡部　努	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【授業概要】幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示される領域「健康」のねらいや内容、内容の取り扱いについて理解する。さらに、子ども自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うために保育者として必要な専門的知識と実践的な指導法を習得する。また、乳幼児期の生活習慣や心身の発達に関する今日的な課題を理解し、解決方法を探求する。
【授業方法】前半では講義を中心に行い、後半はグループ学習・プレゼンテーションを行う。

授業の到達目標
(1)幼稚園教育要領、保育所保育指針に示される領域「健康」のねらい及び内容、内容の取り扱いについて理解し、説明することができる。
(2) 子どもの健康や今日的課題に関心を持ち、子どもの心身の発育・発達を促し、健康で安全な生活をつくり出すための援助や子育て支援について、考えや意見を示すことができる。
(3) 子どもの発育・発達に関する知識をもとに、成長や発達に応じた援助の仕方について、工夫することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
◦授業前には授業内容を教科書で確認する。(毎回の授業につき60分)
◦授業後はレジュメの整理をし、内容の振り返りを行う。(毎回の授業につき60分)
◦乳幼児の健康についての問題に関する資料収集及び課題発表の準備を行う。(毎回の授業につき120分)

評価方法
授業への参加態度・提出物(20%)　課題発表 (40%)　小テスト・確認テスト(40%)　計100%

教科書	参考図書
『健康　(新・保育実践を支える)』　津金美智子・小野隆 (編著)　福村出版	『保育内容 健康[第2版] (新時代の保育双書)』春日 晃章他 (編集)　みらい 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は、授業内で知らせる。

01	オリエンテーション・保育内容における「健康」とは
02	領域「健康」の捉え方
03	からだの発育・発達と健康
04	こころの発達と健康
05	保育における運動遊びの指導と留意点
06	健康な生活リズム・基本的生活習慣の理解
07	乳幼児の生活習慣の指導・援助と子育て支援
08	保育における安全管理と安全教育
09	領域「健康」の指導計画と展開
10	保育における健康管理と保健指導
11	保育における運動遊びの指導実践
12	乳幼児の生活習慣に関する健康問題と指導法の探求　発表及び質疑応答
13	乳幼児の食習慣に関する健康問題と指導法の探求　発表及び質疑応答
14	乳幼児の運動に関する健康問題と指導法の探求　発表及び質疑応答
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と健康」	担当者:堀　建治	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳幼児期は、身体が著しく発育するとともに、運動機能が急速に発達する。本授業は子どもの発達の姿を理解し、保育のうえでどのように取り組むかを、幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容、内容の取扱いについて理解する。さらに、幼児が自己充実を深め生活リズムの獲得や乳幼児の育ちを支える保育者の役割や指導法、評価のあり方について学ぶ。本授業では、毎時間、グループワーク等、学生からの意見を聴取して、知見を深める。

授業の到達目標
・領域「健康」について「ねらい」や「内容」等について理解できる。
・子どもの発達の姿を通して、乳幼児、あるいは人間にかかわる「健康」について知見が深めることができる。
・基本的生活習慣の獲得や確立、安全にかかわる意識の育成を図ることの大切さについて理解できる。
・領域「健康」の特性に応じた課題や保育実践の動向を知り、保育の質向上に取り組むことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
事前学修：授業内容を教科書で確認し、トピックとなる事項について学習する（1.5時間）。事後学習：ノート等で授業での学びを振り返り、必要に応じて関連文献での補い学習をする（1.5時間）。

評価方法
確認試験（70%）、リアクションペーパー、発表、課題提出等（30%）・確認試験については、専門職として必要な知識の理解度について２回実施、評価する。・リアクションペーパー、発表、課題については、質・量を勘案して評価する。

教科書	参考図書
新時代の保育双書　保育内容健康	幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本科目は将来保育者として必須となっている。保育者としてふさわしい態度やマナーをもって取り組むこと。特に私語、携帯電話やスマートフォン操作、居眠り等は厳しく指導する。質問等があれば、授業前後に直接尋ねるか、もしくはリアクションペーパーに記載すること。

01	オリエンテーション（授業の進め方）
02	領域「健康」の「ねらい」①（総論）
03	領域「健康」の「ねらい」②（各論）
04	領域「健康」の「内容」①（総論：グループ学習）
05	領域「健康」の「内容」②（各論：グループ学習）
06	領域「健康」の「内容」③（成果発表と「内容の取扱い」）
07	子どもの発達と運動遊びの意義
08	「遊び」教材研究・第１回確認試験
09	運動能力と運動遊びのかかわり
10	運動遊びの指導上のねらいと留意点・指導計画の作成
11	子どもの健康と基本的生活習慣
12	安全管理と安全教育 安全管理と安全教育
13	子どもにとっての健康とは①（からだ・こころ）
14	子どもにとっての健康とは②（社会）
15	まとめ・第２回確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と健康」	担当者:水落　洋志	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　乳幼児期は、将来健康な人間として生活していくための基礎を培う重要な時期である。本科目では、乳幼児の心身の健康に関する内容、基本的な生活習慣、運動的活動に関する内容を中心に、心身の調和のとれた発達について、講義や参考資料から学習する。また、健康な生活を営むための保育者の役割などについて、準備学習や意見交換を通じて理解を深める。

授業の到達目標
(1)幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される「健康」の領域のねらいや内容を理解する。
(2)「健康」の領域を通じて何を育てるべきか、そのためにどのような援助が必要かについて理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：次回、実施予定範囲の教科書を熟読すること。また、日ごろから子どもの健康に関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくこと。
事後学修：学修した内容の振り返り（ノート）及び理解不足の箇所について復習すること。
毎回の準備・事後学修にかかる時間は概ね90分程度。

評価方法
確認テスト（50%）、提出物（20%）、授業の参加態度等（30%）で評価する。
学生に課題を課した際は、解説を行い結果をフィードバックする。

教科書	参考図書
新時代の保育双書 保育内容健康（株)みらい	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
担当者に連絡が取りたい場合は、教務課へ申し出る。

01	保育内容における「健康」とは
02	子どもの生活と健康について
03	乳幼児期の身体の発育・発達（１）
04	乳幼児期の身体の発育・発達（２）
05	乳幼児期の運動能力の発達
06	基本的生活習慣（１）
07	基本的生活習慣（２）
08	健康な生活のリズムとは
09	乳児のあそびと運動（１）
10	乳児のあそびと運動（２）
11	領域「健康」のねらいと内容（１）
12	領域「健康」のねらいと内容（２）
13	安全管理（事故と予防）
14	安全管理（安全対策）
15	子どもの健康生活と保育者の基本的な役割、確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と環境」	担当者:青山　裕美, 田中　義和, 松川　礼子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長
この授業科目では、保育園での実務経験を踏まえ、乳幼児期の子どもが保育所や幼稚園などの場で主体的に周囲の環境とかかわり育っていく過程と、保育者としての乳幼児の環境をとらえるための視点について学ぶことができるようにする。さらに指導案の作成に導く。

乳幼児を取り巻く環境や乳幼児と環境とのかかわりについての現状や課題を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深める。
乳幼児の「環境」にかかわる具体的な場面を想定し、発達に応じた保育の構想、指導方法を身に付ける。

授業の到達目標
・幼稚園教育要領・保育所保育指針の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。
・「環境を通して行う保育」や環境にかかわることで育つことが期待される資質・能力への理解を深め、保育を構想し具体的な指導案を作成する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・乳幼児の日常の姿から環境にどのようにかかわり何を楽しんでいるかを感性豊かに観察すること。
・保育現場での環境を通して行われる保育について、実習などの機会に観察をすること。

評価方法
授業への参加態度（30%）　提出物（30%）　確認テスト（40%）

教科書	参考図書
なし　適宜配布	幼稚園教育要領　保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	教育・保育における「環境」
02	子どもの育ちと「環境」
03	好奇心・探求心を育てる環境
04	思考力の芽生えを育む環境
05	子どもと自然①　土・砂・水等の自然　自然事象
06	子どもと自然②　樹木・草花等の自然　栽培
07	子どもと生き物　虫・小動物とのかかわり　飼育
08	子どもと身近な物①　玩具・遊具・用具
09	子どもと身近な物②　道具・性質や仕組み
10	子どもと環境のかかわり　数量や文字・記号
11	子どもと暮らし①　道徳性（大切なこと、大切なもの）
12	子どもと暮らし②　文化や伝統　地域社会
13	環境を通して行う保育の中で育つ力　（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）
14	環境を通した教育・保育の課題
15	まとめ　確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と言葉」	担当者:吉見　昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業では、保育内容の言葉に関する専門的知識と実践的技能の修得を目指します。子どもの言葉とは何か、言葉の発達とは、さらに言葉の発達を促すための教材として絵本等をどう活用すべきか学んでいきます。授業の方法は、授業の最初に絵本の読み聞かせを３名ほどが実演し、その後、教科書を読みビデオ視聴をした上で課題を解答します。座席は指定し、適宜、グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングの技法を用いて読み聞かせや絵本の制作を実施します。授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングを活用します。

授業の到達目標
１　幼稚園教育要領、保育所保育指針では領域「言葉」をどのように捉えているか理解できる
２　言葉とは何か、言葉の発達過程について説明することができる
３　言葉の発達を促す保育者の働きかけや絵本などとの関わりを理解し、実践できる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読むこと。加えて授業開始時に絵本の読み聞かせを担当する学生は事前に読み聞かせの練習を重ねて下さい（授業毎に１時間）。事後学修としては、絵本ノートを活用して図書館などで絵本のあらすじや内容をまとめて下さい（約30時間）。さらに、絵本の制作においては、各授業の進度に合わせてグループごとに制作活動を自主的に進め下さい（約15時間）。

評価方法
　受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を40%、絵本ノートと絵本の制作を40%、最後の確認テスト20%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
保育内容（言葉）ワークブック　吉見昌弘、三恵社	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	言葉とは何か
03	言葉の働き
04	言葉と児童文化財　－教材の種類（絵本、ペープサート、パネルシアター）
05	言葉を育むための保育者のかかわり　－絵本の読み聞かせについて－
06	言葉を育むための保育者のかかわり　－絵本の読み聞かせの実演－
07	子どもの言葉の発達　－乳児の言葉の発達－
08	子どもの言葉の発達　－２～３歳児の言葉の発達－
09	子どもの言葉の発達　－４～５歳児の言葉の発達－
10	保育内容の領域「言葉」－幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「言葉」－
11	保育内容の領域「言葉」－領域「言葉」と教科「国語」との関係－
12	言葉と絵本　－世界で一つだけの手作り絵本－
13	言葉と絵本　－絵コンテ作り－
14	言葉と絵本　－絵本の制作と実演－
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と言葉」	担当者:神谷　妃登美	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 　乳幼児期は周囲の人とのかかわりの中で言葉を覚え、次第に自分の意志や思いを言葉を使って人に伝えるようになっていく。本授業では、乳幼児が言葉を身につけていく過程を理解し、言葉の発達を促す環境や保育者の援助について、視聴覚教材や事例をもとにグループ討議を通して学んでいく。また、言葉を育てるために、パネルシアターやことば遊びなどの教材をどのように活用すると良いか、体験しながら学んでいく。
授業の到達目標 ①　幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」のねらい内容を理解する。 ②　乳幼児期の言葉の発達過程と、発達に応じた保育者の援助のあり方を理解する。 ③　子どもの発達に合った教材を選び、実践的な指導法を身に付けることができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 ・日常生活の中で、常に子どもの言葉に耳を傾けるようにする。 ・多くの絵本等に親しみ、絵本ノートに記録したり、自らの言葉を豊かにしたりする。
評価方法 授業への参加態度・ミニレポート　20%、　課題30%、　テスト50%

教科書	参考図書
レジュメ等を配付	幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 　保育者は乳幼児にとって大きな影響を与える重要な環境となる。それを自覚し、自身の言葉を見つめながら授業に参加してほしい。

01	オリエンテーション、領域「言葉」とは
02	乳幼児の言葉の発達①
03	乳幼児の言葉の発達②
04	子どもの言葉から心をつかむ
05	お話つくり①
06	お話つくり②
07	生活や言葉を豊かにすることば遊び
08	3歳児の言葉と保育者の関わり
09	４歳児の言葉と保育者の関わり 3歳児の言葉と保育者のかかわり
10	５歳児の言葉と保育者の関わり
11	文字との出合い
12	子どもと絵本
13	絵本から劇遊びへ
14	さまざまな児童文化財
15	まとめ　確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と言葉」	担当者:太田　昌孝	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
言葉は人間固有のコミュニケーションツールであるだけではなく、人間が人間として生きて行く為の中枢である。本講義では乳幼児期における言葉の習得の基礎を学ぶと共に、子どもたちの生活と言葉との関係についてその基礎的事項を習得する。

授業の到達目標
① 言葉の持つ基本的性質について理解する。
② 乳幼児の言葉の発達過程を理解する。
③ 言葉を育てる保育者の基本的姿勢と理念について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
① 日常生活の中で、常に子どもの言葉に耳を傾けるようにする。
② 絵本の読み聞かせ等を通じて、自らの言語感覚を練磨する。

評価方法
課題、(20) 授業態度、(10)レポート、(70)を通じて総合的に評価する。

教科書	参考図書
『保育内容・言葉』　(同文書院)	『本が好きな子に育つために』（萌文書林）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
① 系統的な講義になるので欠席をしないようにすること。
② 講義におけるマナーを遵守し、学生としての本分を忘れないようにすること。
③ 連絡方法については講義で指示する。

01	オリエンテーション　「言葉」とは何か。
02	幼稚園教育要領・保育所保育方針「言葉」の領域について。
03	テキスト第1章　「子どものことばと育ち」
04	テキスト第2章　「領域『言葉』とはなにか①。
05	テキスト第3章「ことばの発達」①
06	テキスト第4章「子どものことばと保育者」②
07	テキスト第5章「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」①
08	テキスト第5章「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」②
09	テキスト第5章「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」③
10	テキスト第5章「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」④
11	テキスト第7章「絵とことばの豊かな世界を楽しむ」①
12	テキスト第7章「絵とことばの豊かな世界を楽しむ」②
13	テキスト第7章「絵とことばの豊かな世界を楽しむ」③
14	テキスト第9章「想像やことばのリズムを楽しむ」①
15	講義のまとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と言葉」	担当者:杉山　実加	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳幼児の言葉の発達段階や言葉の役割など、子どもの言葉の豊かさを養うために必要な基礎的事項を学ぶ。授業ではグループワークや体験・動画視聴など多様な学習方法を通して理論的・実践的に学びを深める。授業内の読み・書き・対話といった活動を通して学生自身の言葉もより豊かになることを目指す。

授業の到達目標
1、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「言葉」のねらい及び内容を理解する
2、乳幼児の言葉の発達段階や学びの過程を理解する
3、具体的な実践例に基づき、子どもとの関わりや保育について考えることができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
1、ざまな表現や語彙に関心を持ち、それらを積極的に活用するなど、日常生活の中で自らの言語表現能力を豊かにするよう心掛ける
2、絵本や紙芝居などの児童文化財を実際に読み、そのおもしろさを体感する

評価方法
授業態度　10%　授業内課題　50%　確認テスト　40%

教科書	参考図書
なし	絵本から広がる遊びの世界：風鳴舎　事例で学ぶ保育内容領域言葉：萌文書林

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内のグループワーク・課題が学びを深めるために重要となるため、積極的に取り組むこと。
授業ごとに到達目標を段階的に提示するため、目指す到達点を自分で設定して受講すること。

01	オリエンテーション　授業の全体の流れ・領域言葉のねらい
02	五領域における言葉の役割―他領域との関連性
03	乳児の言葉の発達―0歳児
04	乳児の言葉の発達―1.2歳児
05	幼児の言葉の発達―3～5歳児
06	事例を通して学ぶⅠ　保育者と子どもの言葉
07	事例を通して学ぶⅡ　子ども同士の言葉
08	事例を通して学ぶⅢ　子どもの集団の言葉
09	発達の遅れと支援方法
10	絵本から広がる遊びの世界
11	教材研究・指導案作成（絵本・紙芝居）
12	グループ発表
13	絵本にオリジナルの物語をつける
14	小学校での学びと幼児期の経験の繋がり
15	授業のまとめ　確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と表現」	担当者:高須 裕美,高田　吉朗,中川　晶子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの生活において、経験を通した感性の育ちやイメージの形成が大切である。この授業では、オムニバス形式で、造形表現、音楽表現、身体表現、言葉，現場での実践的表現を学ぶ。また、子どもが周りの世界と意欲的に関わり、様々な方法でイメージを膨らませ表現して遊ぶことの意義や保育者自身の表現力を鍛える。

授業の到達目標
2年次に行われる実習での学びと連動しながら、現場でも役に立つ実践的な表現力とその技術を学ぶ。子どもと保育者の感性豊かな表現の重要性を認識できるようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　常に子どもにどのように伝えるかを想定しながら感性豊かな生活を心掛ける。後期に実施する総合表現では、授業外での打ち合わせ、リハーサル、練習の積み重ねが必須である。

評価方法
最後に行う総合活動としての「音楽劇」のグループ発表30%、各分野の小テストや造形分野のスケッチブック20%、出席状況を含めた受講態度50%

教科書	参考図書
『保育実践を支える　表現」建帛社	「楽しさはじける表現あそび」　明治図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分自身の感性を豊かにするために、見たり、聴いたり、触れたりする経験をすること。

01	造形表現とは（春の工作）
02	音楽表現とは（身体表現）
03	領域「表現」とは
04	題材を選ぶポイント（実習に向けて）
05	身体の諸感覚を使った遊びが紡ぐ表現
06	乳幼児の発達と表現１
07	絵から分かる子どもの心（略画）
08	身体やリズム遊びが紡ぐ表現
09	乳幼児の発達と表現２
10	子どもの絵の発達（七夕工作）
11	身体表現でのストーリー制作
12	保育者が支える表現１
13	子どもの絵の特徴（実習に向けて）
14	音楽表現の模擬保育１
15	保育者が支える表現2
16	絵による制作の基本
17	音楽表現の模擬保育２
18	ごっこ遊びから劇遊びへ/音楽劇の準備
19	音楽劇の制作
20	音楽劇の制作
21	音楽劇の制作
22	音楽劇の制作
23	音楽劇の制作
24	音楽劇の制作
25	音楽劇の制作
26	音楽劇の制作
27	音楽劇の制作
28	音楽劇の制作
29	音楽劇の制作
30	音楽劇の制作
31	音楽劇の発表

2019年度シラバス

科目名:幼児教育指導法	担当者:杉山　実加	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育のねらいを達成するために必要な指導・援助を行うために必要な理論や技術について理論的に学ぶとともに、その知識を活用したグループワークなどの実践的な学びを通して、子どもの主体性や個性を尊重した指導の在り方について学ぶ。

授業の到達目標
1、保育の形態・方法・環境構成について理解する。
2、保育内容の指導に必要な基本的姿勢と考え方を理解する。
3、効果的な情報機器及び教材の作成・提示の仕方を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
1、日常生活の中で、さまざまな保育形態・方法に関心を持つようにする。
2、授業での学びと実習での学びを結び付けることで、より深い理解を目指す。

評価方法
授業態度10%、授業内課題50%、確認テスト40%

教科書	参考図書
なし	実践を創造する幼児教育の方法：みらい

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
1、授業では他者との学び合いの機会を大切にし、さまざまなメンバーと学ぶことを通して、コミュニケーションや傾聴の技術も向上するよう意識すること。
2、授業ごとにルーブリック評価を提示するため、自身で学ぶ目的と到達目標を意識して授業に臨むこと。

01	オリエンテーション　授業全体の流れ、ワークシートについての説明
02	幼児教育における指導の特性Ⅰ　総合的な指導
03	幼児教育における指導の特性Ⅱ　個と集団
04	環境を通しての保育
05	遊びの指導・援助
06	生活の指導・援助
07	園行事の指導・援助
08	具体例をもとに指導について考えるⅠ
09	具体例をもとに指導について考えるⅡ
10	具体例をもとに指導について考えるⅢ
11	小学校との連繋の方法・援助の在り方
12	保育における情報機器の活用方法
13	諸外国の保育方法Ⅰ
14	諸外国の保育方法Ⅱ
15	授業のまとめ　確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:幼児教育指導法	担当者:朴　信永	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
幼児期にふさわしい保育を実践し展開していくための方法を、事例の読み取りや具体的な実践例における
グループ討議や、指導計画作成等を通して、理論的、実践的に学習する。

授業の到達目標
幼児期の発達の特性を踏まえて、一人一人の内面を理解するとともに、幼児の主体性や仲間と育ち合っていくための多様な指導の在り方について学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：子どもに関すること、保育に関することを社会的視点でとらえられるように、報道や新聞記事など積極的に収集すること。
事後学修：授業後は授業内容を振り返り、次の授業で自分の考えや意見が述べられるように整理しておくことが望ましい。

評価方法
定期試験40%　授業への参加意欲・態度30%　課題および振り返りレポート30%を総合的に評価する。

教科書	参考図書
なし	保育所保育指針解説書，幼稚園教育要領解説，幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書は使用せず資料を随時配布するので、その資料に講義の内容を書き込んだり、自主的に調査したことや資料を添付するなどして、オリジナルな自分自身のためのファイルを作成すること。
この科目は保育指導法５領域を総括する科目である。「５領域を総合的に保育にどのように取り入れていくとよいのか」という視点を持って受講すること。意欲的に授業に取り組み、積極的に発言するなど保育者になることを意識して臨むことを期待する。

01	オリエンテーション- 保育・保育内容とは何か
02	幼児教育の基本・幼児期の発達の特性
03	幼児教育における指導の特質についてⅠ（幼児期にふさわしい生活や遊びと総合的な指導）
04	幼児教育における指導の特質についてⅡ（一人一人に応じた指導・主体性や協同性を生み出す指導）
05	幼児を理解するⅠ（一人一人の思いを理解する・こだわりに付き合う）
06	幼児を理解するⅡ（葛藤する心を支える）
07	環境を通しての指導を考える（環境の構成と活動の展開に応じた再構成）
08	望ましい指導のための計画Ⅰ（VTR視聴を通して　３歳児前期）
09	望ましい指導のための計画Ⅱ（VTR視聴を通して　３歳児後期）
10	望ましい指導のための計画Ⅲ（VTR視聴を通して　４歳児）
11	望ましい指導のための計画Ⅳ（VTR視聴を通して　５歳児）
12	短期指導計画の実際
13	保育者の専門性・保育者の資質向上
14	より良い保育に向かう評価と反省
15	幼児教育の今日的課題とまとめ
16	なし

科目名:保育課程論	担当者:小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
この授業科目は、元保育園長の経験を踏まえ、保育者が子どものよりよい成長を願い、子どもとともに遊びや生活を創り出すことができる「計画に基づいた実践」について、その仕組みや考え方、作成の方法、省察の意義と方法について具体的に考える。保育所における全体的な計画や具体的な指導計画は、保育者の意図や目的のないままに行われることはない。保育所で実践経験をもとに保育者の子ども理解や保育観が計画実践に影響を及すことを理解できるように授業内で検討を重ねる。

授業の到達目標
保育課程とは何か理解する。保育課程編成の考え方や編成に必要な関係法規、作成方法について具体的に知識を深める。編成にとって必要な子ども理解や子どもの育ちを支える環境等にも知識、理解を深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育に関する法規、特に改定のあった3法令については、新要領や新指針をよく読むようにすること。子どもを取り巻く環境の変化や、社会問題にも関心を深められるように、日々のニュースや新聞記事などにも関心を持って目を通すようにする。

評価方法
授業中の課題レポート50%　各授業での小レポート30%　授業の振り返り　20%

教科書	参考図書
保育カリキュラム論　建帛社	幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説書　幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
子どもが主体的に遊ぶことができる環境づくり、計画づくりを考えましょう。「わからないことは聞く」を実践しましょう。

01	保育課程とは
02	保育課程の意味　保育をデザインする
03	保育課程編成に必要なこと①　関係法規
04	保育課程編成に必要なこと②　子どもの発達理解　発達過程の見直し
05	保育課程編成に必要なこと③　地域や家庭環境の実態の理解と連携
06	保育課程編成に必要なこと④　子どもを取り巻く環境・社会問題
07	保育の計画と評価の意義
08	PDCAサイクルの考え方と意義　省察の方法
09	保育所保育指針と保育計画との関連
10	保育課程編成と展開
11	保育課程から指導計画へ
12	指導計画立案の考え方と方法　基本的視座
13	指導計画立案の考え方と方法　子どもの姿を計画に反映するために
14	指導計画立案の考え方と方法　実際に立案してみよう
15	まとめ　保育実践に活かす　保育課程と指導計画作成のために
16	

科目名:障害児保育	担当者:山下　直樹,亀山　洋光	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】障害児入所施設児童指導員
本授業は、障がい児入所施設児童指導員の経験を活かし、より具体的事例を用いて授業を展開します。保育者として障害のある子どもやその保護者と向き合いいかに理解し支援していくことができるのか体験的に学びます。

保育現場において、障がいを持つ子どもへの理解を深めるために、ここではまず障がいをどのように捉えるのかについて学びます。また、保育現場でよく出会う発達障がいを中心に障がいの特徴や保育現場でできる支援について事例や体験を多く取り入れながら学んでいきます。

授業の到達目標
この授業では、保育者として必要不可欠である、障がいを持つ子どもに対しての理解を深めることを目的とします。また、障がいを持つ子どもを取り巻く理念等の理解を深め、保育現場でできる配慮や環境設定の工夫などを演習を通して体験的に理解します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
障がいを持つ子どもの理解と支援は、授業だけでは学びきれませんから、夏休みなどの長期休暇中に施設や地域でのボランティアなど、積極的に子ども達と関わってください。

評価方法
授業への参加態度35%　毎時間のワークシート35%　　確認テスト30%

教科書	参考図書
小林徹・栗山宣夫「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」　株式会社　みらい	授業時にお知らせします

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学修が進んでいくと「障がいとは?」「人間とは?」など、色々な「問い」が生じるかもしれません。学生時代にこうした「問い」を持つことは、将来みなさんが保育者になったとき、必ず心の支えとなると思います。

01	障がい児保育概論①：障がい児保育とは～障がいの捉えかたと保育の歴史
02	障がい児保育概論②：障がい児保育の基本
03	子どもの発達障がいとその理解①：知的障がい児の理解とその支援
04	子どもの発達障がいとその理解②：自閉症スペクトラム障がい
05	子どもの発達障がいとその理解③：自閉症スペクトラム障がい
06	子どもの発達障がいとその理解④：自閉症スペクトラム障がい
07	子どもの発達障がいとその理解④：学習障がい
08	子どもの発達障がいとその理解⑤：注意欠陥多動性障がい
09	子どもの発達障がいとその理解⑥：発達性協調運動障がい
10	感覚過敏について：触覚、運動感覚、平衡感覚
11	障がいを持つ子どもの保育の実際①：療育的な視点とあそびについて
12	障がいを持つ子どもの保育の実際②：愛着障がい
13	障がいを持つ子どもの保育の実際③：保護者とのかかわりについて
14	障がいを持つ子どもの保育の実際④：地域の中で育つ、専門機関とのかかわり
15	授業と確認テスト
16	なし

科目名:海外の保育と英語	担当者:小野　克志	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:短期大学卒業後に専攻科保育専攻に進学し、留学タイプ（オーストラリア保育士資格取得）を目指す		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
保育科では、１年次に「海外保育実習」を実施するのをはじめ、海外の保育・子どもに関わる行事を行っている。そうした海外保育事情に関する知識をより深めたい場合、現地時事関連の把握と語学のコミュニケーション能力の習得が欠かせないものである。本科目は、短期大学卒業後に専攻科保育専攻に進学し、留学タイプ（オーストラリアの保育士資格取得）を志向することを前提に、より専門的な現地保育事情と語学力修得することを目的とする。

授業の到達目標
諸外国、特に留学予定地である、オセアニア地域の保育・幼児教育事情を理解し、また、保育の現場で必要となる英語表現や４技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
インターネットなどを活用し、日頃から英語に慣れ親しむようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　50%　　授業時の発表および課題提出　50%

教科書	参考図書
特になし（適宜プリントを配布します）	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
専攻科保育専攻の留学タイプへの進学予定者向けの授業であることを理解して履修してください。

01	授業概要
02	トラベラーズイングリッシュ①
03	トラベラーズイングリッシュ②
04	オーストラリアの保育・幼児教育を学ぶ①
05	オーストラリアの保育・幼児教育を学ぶ②
06	英語絵本の読み聞かせ①
07	英語絵本の読み聞かせ②
08	ＴＯＥＩＣ受験対策①
09	ＴＯＥＩＣ受験対策②
10	諸外国の子育てを学ぶ①
11	諸外国の子育てを学ぶ②
12	保育現場での英語表現を学ぶ①
13	保育現場での英語表現を学ぶ②
14	英語劇（グループワーク）①
15	英語劇（グループワーク）②
16	定期試験

2019年度シラバス

科目名:音楽Ⅱ（弾き歌い）	担当者:高須裕美　他教員	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:音楽Ⅰ単位修得者を対象とする。		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 音楽Ⅰの受講記録（レッスンノート）によりクラス編成を行う。保育者の音楽表現技術の一つであるピアノを使った「弾き歌い」を中心に学修する。音楽Ⅰで使用したテキスト「子どもの歌130選」、また実習における課題、実習園から配布、指定された曲も学修する。最終授業週には、実技発表を行い評価する。
授業の到達目標 ピアノを弾くことだけではなく、歌うことへの意識を高める。子どもは文字ではなく、聴覚や視覚情報を頼りに歌を覚えていく。そのため、保育者が「うた」の詩（詞）をよく読み意味を理解し、その背景を学び、どのように歌を伝えていくのか、15～20曲の弾き歌いレパートリーを持ち、幅広い表現方法のあり方について実践的に学ぶ。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 　日頃の練習はもちろんのこと、実習先から指定された課題曲も含め、できる限り多くの曲の背景を知り、歌詞について学び、音楽技術だけでなく、どのように保育実践で展開するのかについて考える。声を出すこと、滑舌よく歌うこと、正しい呼吸で歌うことについて、自分の歌を録音したり、人の歌を観察したりしながら、歌の大切さについて意識すること。
評価方法 授業の参加意欲・態度、課題の進行度合い40%　発表（実技）60%

教科書	参考図書
幼児の歌130選（繁下和雄編　全国社会福祉協議会刊）、その他、実習園から指定された曲、配布プリントなど。	子どものうた200（チャイルド本社刊）その他、弾き歌い曲の楽譜など。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	クラス編成およびガイダンス、今後の学修計画の確立。
02	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
03	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
04	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
05	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
06	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
07	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
08	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
09	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
10	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
11	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
12	発表曲の選曲＋学修
13	発表曲の選曲＋学修
14	発表曲の学修
15	発表
16	まとめ

科目名:音楽Ⅲ（弾き歌い・声楽）	担当者:高須 裕美,高田 伸子,宇佐美　衆二,堀ノ内　宏子,槌田　幸子,鈴置　育代,東島　佳子,笠木　厚憲	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:音楽Ⅱ受講者		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 声楽教員の指導の下、歌うことに集中した授業である。弾き歌いのレパートリーを広げること、唱歌、童謡、子どもの歌の伴奏をする。また保育者を目指す学生が、声帯に無理のない歌唱で、「声楽アンサンブル」を経験し、互いの声を聴き合いながら、歌うことの楽しさと技術、感性を修得していく。
授業の到達目標 保育者に必要な「声楽アンサンブル（歌唱）」を中心に授業を進め、独唱・二重唱・三重唱などのあらゆる形態を通し、無理のない発声による歌い方を修得する。また、弾き歌いも引き続き学修し、子どもの歌のレパートリーを増やす。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 個人の弾き歌いの自宅・大学での練習、アンサンブルのパートナーとの音合わせは必須である。
評価方法 実技試験60%（声楽アンサンブル30%　弾き歌い30%）平常点40%※平常点は開講中の学修態度・到達度・出席状況による評価である。

教科書	参考図書
「幼児の歌　130選」繁下和雄編（全国社会福祉協議会）（音楽Ⅰ・Ⅱと同じテキスト）	「教育や保育に携わる人々のための　新・声楽指導教本」教育芸術社刊（弾き歌いコースは不要）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	レッスン授業（自己紹介、発声、歌唱）
02	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
03	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
04	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
05	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
06	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
07	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
08	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
09	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
10	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
11	課題曲の学修、伴奏合わせ、弾き歌いなど
12	課題曲の学修、伴奏合わせ、弾き歌いなど
13	課題曲の学修、伴奏合わせ、弾き歌いなど
14	課題曲の学修、伴奏合わせ、弾き歌いなど
15	課題曲の学修、伴奏合わせ、弾き歌い発表
16	まとめ（アンサンブル）

科目名:体育	担当者:平野　朋枝,山下　晋,横山　龍子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本科目は、保育科ディプロマポリシーの1（理論的・実践的な問題解決能力)に大きく関連し、履修系統図では「保育の技術を支える基礎的な技能」として位置づけられている。自分の体育的技能を高める中で保育の力量形成にいかすことを目的としている。授業では様々な運動を行い、運動技能の向上を図るとともに、運動遊びへの理解を深める。あわせて、幼児期の子どもたちが、自分のからだを動かす喜び、技を身につける面白さ、仲間とともに運動する楽しさを味わうことができるようにする体育指導の考え方や技術・知識を身につける。

授業の到達目標
　①様々な運動を経験して、運動技能の向上を図るとともに運動遊びの様々な方法を知る。
　②上達を目指して取り組む中で、運動の楽しさを知る。
　③乳幼児期を含む発育期の運動発達の過程を理解する。
　④工夫や協力により、より良い保育教材や保育環境を作ることができるようになる。
　⑤運動のコツを理解し、適切な援助ができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・発表等の課題に向けての事前準備を十分に行う。
・学外実習等を通して子どもの運動発達を理解する。
・授業後に、活動内容や自分の気づきを記録する。

評価方法
　実践への取り組みや実技試験の成果（40%）、提出物（30%）、授業に取り組む態度（30%）より、総合的に評価する。但し、欠席等の授業への不参加と課題の提出遅れや未提出については、これらの総合点より減点する。授業記録（ノート）は期末試験に相当するため、必ず提出しなければならない。実技試験の受験も成績評価には必須である。

教科書 指定しない	参考図書 「幼児体育」（建帛社）　「保育と幼児期の運動遊び」（萌文書林）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・運動するのにふさわしい服装（各自で用意すること）
・身だしなみでなければ受講を認めない。
・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。

01	ガイダンス・準備運動の指導
02	基本の運動
03	屋外での運動遊び
04	鬼遊び
05	リズム体操①　（様々なリズム体操）
06	リズム体操②　（パラシュート）
07	身近な素材を使った遊び
08	なわを用いた運動遊び①　（様々な縄の使い方）
09	なわを用いた運動遊び②　（縄跳び）
10	フープを用いた運動遊び①
11	フープを用いた運動遊び②
12	ボールを用いた運動遊び①　（基本の蹴動作）
13	ボールを用いた運動遊び②　（サッカー遊び）
14	運動遊びのまとめ（サーキット遊び）
15	実技試験、前期のまとめ
16	身体表現運動①（様々な身体表現運動）
17	身体表現運動②（表現する素材を考える）
18	ボールを用いた運動遊び①　（基本の投・捕動作）
19	ボールを用いた運動遊び②　（投・捕のゲーム）身近な素材を用いた運動遊び
20	器具を用いた運動遊び①（跳び箱）
21	器具を用いた運動遊び②（マット）
22	器具を用いた運動遊び③（鉄棒）
23	幼児を対象とする運動指導実践の準備①　（環境の構成）
24	幼児を対象とする運動指導実践の準備②　（援助方法）
25	幼児を対象とする運動指導実践①　（第1回実践）
26	幼児を対象とする運動指導実践の準備③　（第1回の振り返りと第2回の準備）
27	幼児を対象とする運動指導実践②（第2回実践）
28	幼児を対象とする運動指導実践のまとめ

29	運動遊びのまとめ（模擬運動会）
30	実技試験、まとめ
31	なし

2019年度シラバス

科目名:教育実習Ⅱ（事前・事後指導）	担当者:神谷　妃登美, 吉田　真弓, 山田　初枝	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 実習園においてより効果的な実習が展開できるよう、園の役割や仕事の内容の大枠を前もって把握し理解するとともに、実習日誌の書き方・指導案の立て方を具体的に学ぶ。また実習後は、自己課題の振り返りやレポートのまとめをしながら、実習の学びを実践力として活かせるようにしたり、自分の今後の課題を明確にしたりする。
授業の到達目標 実習の意義と目的を明確に理解し、保育について総合的に学ぶ。また、実習の円滑な実施のために必要な知識や技術を学ぶとともに、事前の準備をし、実習の課題を明確にする。実習の体験後には、自己評価を通して今後の学習課題を明確にする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 幼児の発達段階を復習するとともに、教材の作成、絵本・紙芝居の読み聞かせやピアノの練習等、実習に必要な準備を計画的に自ら進めていくようにする。
評価方法 事前指導（自己課題・指導案）30%　　事後課題（自己課題の振り返り、実習日誌、レポート）50%　　授業態度・参加状況　20%

教科書	参考図書
実習の手引き（名古屋短期大学実習委員会作成）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) やむをえず欠席した場合は、必ず指示された課題に取り組むこと。 今までの実習を振り返り、自己課題を明確に持って実習に臨むこと。

01	オリエンテーション、教育実習Ⅱの意義と目的
02	実習の目標と課題
03	教育実習についての理解（幼稚園の機能・幼稚園の生活・教育実習の内容）
04	教育実習についての理解（観察・参加・部分実習・指導実習について）
05	保育実習の反省と教育実習の課題（教育実習に反映できる反省と自己課題の明確化）
06	実習生としての実習態度を考える
07	保育現場の実際について
08	指導案の書き方（１）
09	指導案の書き方（２）
10	指導案の書き方（３）
11	指導案の書き方（４）
12	事前訪問の仕方
13	教育実習の直前指導（実習への心構え・具体的注意事項）
14	実習後の指導（実習における学びと自己課題の振り返り）
15	実習後の指導（実習の総括・実習アンケートによる指導）
16	なし

科目名:教育実習Ⅱ（他幼）	担当者:神谷　妃登美, 吉田　真弓, 山田　初枝	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	3
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
教育実習の意義や目的を理解し、保育現場で保育を体験的実践的に学ぶ。学内での指導をもとに、実習園において３週間の日程を様々な形で経験するとともに、自分自身の課題を再確認する機会とする。

授業の到達目標
自分の課題に向けて積極的に取り組むとともに、現場の保育者の指導を真摯に受け止め、その指導を自分自身の実習に反映させ、探求的で責任のある実習態度で臨み、実りある実習が実現することを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習日誌の書き方、指導案の書き方等を復習し、理解を深めておく。また、絵本・歌（ピアノ）・ペープサートやパネルシアター等の教材の準備を進めておく。

評価方法
各実習園からの評価・所見と、実習日誌・実習の振り返り・自己評価等を参考にして、総合的に評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き（名古屋短期大学実習委員会作成）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習においては精神力も体力も必要とするので、常に健康管理に気を付ける。また、保育者として（子どものモデルとして）ふさわしい言葉づかい、生活態度を常に意識した日常生活を過ごすようにして３週間の実習に臨むようにする。

01	事前訪問 　園の概況・教育方針・指導計画・勤務時間・施設備品等の使用・安全対策・配当学年・歌・服装・持ち物等、多岐にわたるオリエンテーションを受け、実習生としての心の準備とともに教材の準備をする。 実習１週目（観察実習を主とする） 　登園から降園までの１日の保育の流れを把握する。環境の構成・保育者の関わり・保護者への対応・幼児理解等について、２週目以降の実習に活かされるよう、深く綿密な観察を行い実習日誌に記述する。 実習２週目（観察及び部分参加実習を主とする） 　１週目の観察実習に加え、子どもと保育者・子どもと保護者・子ども同士・子どもと環境・意図性のある保育者の援助等、課題を持って観察するとともに、担当指導者の指示に従って様々な部分実習を経験する。 実習３週目（部分及び１日実習を主とする） 　１・２週目における観察・部分実習に対する反省評価を踏まえ、この週では指導実習として１日を任された実習を１～２回行う。指導計画の立案も含めて、環境の構成・教材準備等すべてを責任保育者として行う。また、反省会において、自分の保育の振り返りをし、指導を受けながら保育に対する理解を深める。 その他（各園の園運営に参加） 　子育て支援活動・園行事・職員会等の園運営にも積極的に参加の機会を持つ。 事後訪問（実習終了後１週間以内に） 　３週間の実習指導に対するお礼を兼ねて、実習日誌を提出する。また後日、実習日誌の受け取りをする。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習ＩＢ（事前・事後指導）	担当者:青山　裕美, 中川　晶子, 小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
保育実習の概要を整理し、保育所実習の目的を理解する。学内で履修した授業の成果をふまえ、保育現場での保育を体験的かつ実践的に学ぶことができるように、必要な準備について、講義や資料を通して具体的に知り実践する。子どもの理解や保育の理解が深まるように、実際に保育の記録、指導計画を書いてみる。また、保育に必要な教材について調べ、活用方法を理解し実践してみる。

授業の到達目標
保育所の役割や機能を理解する。乳幼児の発達特徴が分かる。保育者の専門性や役割を知る。保育倫理について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
付属幼稚園実習や施設実習の経験や気づき・学びを整理して保育実習における自分の課題を立てる。保育所の役割や子どもとかかわることについて積極的に調べたり、保育の教材研究を進めるなど、自主的に保育関連のことを学修すること。

評価方法
提出課題(40%)、授業の受講態度(30%)、授業の振り返り(30%)を総合して評価する。

教科書 実習の手引き(名古屋短期大学実習委員会作成版)	参考図書 保育所保育指針　全国保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
あらゆる側面から保育について考える習慣を身につけ、自主的に実習準備ができるように心がけること。

01	保育実習の意義（実習の目的、実習の概要、留意事項）・保育実習関係書類作成等の事務手続き
02	保育所の機能と役割・事前訪問（実習園オリエンテーション）について・実習の自己課題
03	子どもの最善の利益を考慮した保育を具体的に学ぶ・個人情報・守秘義務について
04	保育者の専門性と役割・保育倫理について(全国保育士会倫理綱領)
05	子どもを理解することについて①
06	子どもを理解することについて②
07	子どもとの遊び　教材について
08	保育の記録の書き方
09	部分指導案の考え方と立案の手順
10	実習直前指導(心構えと準備の確認)
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習Ⅱ（事前・事後指導）	担当者:青山　裕美, 中川　晶子, 小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
保育実習の概要を整理し、保育所実習の目的を理解するとともに、これまでの実習及び学内で履修した授業の成果をふまえ、保育現場での保育を体験的かつ実践的に学ぶことができるように、必要な準備について、講義や資料を通して自主的に行う。子どもの理解や保育の理解が深まるように、保育の記録や、指導計画を実践的に書く。また、保育に必要な教材を自主的に調べ工夫しながら準備する。

授業の到達目標
保育所保育について総合的に学び実践力を培う。乳幼児の発達特徴を理解し、子どもの最善の利益を考慮した保育について具体的に理解する。保育者の専門性や役割についての理解を深める。保育所が担う子育て支援について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
今までの実習をふり返り、授業の成果を踏まえて、実習において保育をより実践的に体験できるように実習の自己課題を明確にしておく。子どもとのかかわりや保育現場とのかかわりを自主的に行い、保育への関心をより深めていくようにすること。深めて

評価方法
提出課題(40%)授業の受講態度(30%)、実習準備への向き合い方と内容(30%)を総合して評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き(名古屋短期大学実習委員会作成版)	保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者としての感性を日頃から持てるように視野を広げ、様々な活動に進んで取り組んでみること。

01	保育実習の意義（実習の目的・実習の概要・留意事項）・保育実習関係書類作成等の事務手続き
02	保育所の機能と役割・事前訪問（実習園オリエンテーション）について・実習の自己課題
03	子どもの最善の利益を考慮した保育を具体的に学ぶ・個人情報・守秘義務について
04	保育者の専門性と役割・保育倫理について理解を深める
05	子どもを理解する①
06	子どもを理解する②
07	保育の記録を書く①
08	保育の記録を書く②
09	部分指導計画の作成①
10	部分指導計画の作成②
11	一日の指導計画の作成①
12	一日の指導計画の作成②
13	実習直前指導(心構えと準備の確認)
14	事後指導　自己課題の振り返りと整理
15	事後指導　自己評価と課題の整理
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育実習Ⅰ（保育所）	担当者:青山　裕美, 中川　晶子, 小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
保育所ならびに施設の概要を整理し、実習の目的を理解する。学内での授業の内容を踏まえ、保育現場において保育を体験的かつ実践的に学ぶ。

授業の到達目標
保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。既習の教材内容を踏まえ、子どもの保育、保護者との関係について学ぶ。保育の計画、観察の記録 の仕方及び自己評価について具体的に理解する。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
付属幼稚園実習やボランティア体験等の気づきや学びを整理して自分の実習課題を立てること。子どもの発達について整理し、わからないところを復習すること。教材や教材の活用の仕方について 考え、自分でできることを積極的に進めること。

評価方法
実習園の評価、実習に関連する課題、実習の振り返りと自己評価を総合して評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き(名古屋短期大学実習委員会作成版)	保育所保育指針　全国保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
元気に挨拶する。何事も積極的に取り組むようにすること。

01	1保育所の役割と機能について知る(一日の流れ、保育の展開) 2子どもを理解する(子どもの観察と記録の視点、発達過程、援助やかかわり) 3保育内容・保育環境(計画に基づく保育内容・発達過程に応じた保育内容遊びや保育環境・健康と安全) 4保育の計画・観察・記録(保育課程、指導計画の理解と活用・記録に基づく省察と自己評価) 5専門職としての保育士の役割と職業倫理（保育士の業務内容・職員間の役割分担と連携・保育士の役割と職業倫理)
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習Ⅱ	担当者:青山　裕美, 中川　晶子, 小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
保育実習の意義や目的を理解し、子どもの最善の利益を考慮した保育・保護者支援など、保育の学びを具体的にする。保育実習Ⅰでの経験や既習の教科内容との関連性をふまえて実践する。観察や記録、自己評価をふまえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。保育士の専門性や職業倫理について十分理解する。

授業の到達目標
保育を総合的に学び、実践できるようにする。子どもの状態に応じて適切にかかわることが出来るようにする。
保育の計画が具体的に立案でき、保育の表現技術を生かして実践できるようにする。保育の観察、記録、自己評価に基づく改善ができる。
事後指導において保育の自己課題が明確になる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・今までの実習を振り返り、保育実習Ⅱにおける自己課題を明確にする。
・実習中は、自己評価に基づく改善をしながら、より深みのある体験的学習ができるようにする。

評価方法
実習園の評価・実習に関連する課題・実習の振り返りと自己評価を総合して評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き　(名古屋短期大学実習委員会作成版)	保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育保育要領　全国保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
これまでの実習、自主学習を生かして、自主的かつ積極的に実習に取り組めるようにすること。教材研究やピアノの練習など自主学修を怠らないこと。

01	実習の自己課題を実習先に提示し、目的を明確にして実習に取り組む。実習の事前準備や実習園とのオリエンテーションを基にしてより具体的に保育を学ぶ。子どもの保育、保護者支援について学び、その意味を理解する。子どもの状態に応じた適切な援助やかかわりができるようにする。準備した教材を保育に活かすための表現技術を工夫し実践する。保育の観察に基づく具体的な計画を立てて実践し、自己評価する。保育実践について自己評価したり助言されたことをいかして改善し、計画の再構成をする。 保育士の専門性や職業倫理について理解を深める。保育実践をふり返り、子ども理解を深め、保育するイメージ力を高める。事後指導において自身の実習を総括する。子どもとのかかわりにおいて考察したことをレポートにまとめ、子ども理解を深める。事前に立てた実習の課題をふり返り、自己評価が確実にできる。自身の保育の課題を明確にし、保育士として働くイメージを持つ。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実践演習	担当者:山下　直樹, 小川　雄二, 近藤　茂之, 高田　吉朗, 高須 裕美, 平野　朋枝, 吉見　昌弘, 小川　絢子, 神谷　妃登美, 太田　昌孝, 小柳　雅子, 上原　隆司, 新沼　英明, 吉田　真弓, 杉山　実加, 青山　裕美, 小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習

免許・資格:保育士資格	開講時期	通年
	配当学年	2
受講者制限:	単位数	2
	必須. 選択	必須

授業概要と方法
少人数の研究グループによる共同研究を行います。学生は、保育実践演習に主体的に取り組み、相互に研究交流、研究展開を行います。また、野菜の栽培や様々な集団活動は、保育者としての資質向上に欠かせないものですので、積極的に取り組むことが望まれます。

授業の到達目標
１　自己研究能力育成、２　発表・討論・表現能力の形成、３　相互協力・協働能力の形成が期待されます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
学内外を問わず、様々な活動に参加しますので、主体的な参加をしてください。研修旅行や研修合宿も行います。

評価方法
提出された論文の内容的評価はもちろんのこと、論文完成に至るまでの各グループにおける個々の役割遂行や一連の活動への参加状況によって評価します。卒業論文のみならず、演習授業への積極的、自主的態度が望まれ、その体動についても評価します。また、定期的なゼミファイルの提出を求め、ファイルの状況、提出状況も評価に加えます。

教科書 必要に応じて指示します	参考図書 保育所保育指針、幼稚園教育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
上記についての詳細は、初回のゼミガイダンスにて配布される資料に掲載されているので、各自よく目を通して不明な点がないようにしておくこと。それらの資料は毎回のゼミに必ず持参すること。また、個別ゼミだけがゼミの時間ではなく、「研究法入門」「就職懇談会」なども大切なゼミの一環です。どれも逃さずに参加してください。

01	保育実践演習ガイダンス
02	個別ゼミ１　1年間の運営方針や自己紹介など
03	個別ゼミ２　卒業研究テーマの再確認等
04	ゼミ交流会
05	個別ゼミ３　卒業研究グループ編成
06	研究法入門Ⅲ
07	個別ゼミ４　研究活動開始及び個別面談等
08	個別ゼミ５　各グループの運営委員決め
09	個別ゼミ６　各グループの研究活動
10	個別ゼミ７　各グループの研究活動
11	個別ゼミ８　各グループの研究活動
12	個別ゼミ９　各グループの研究活動
13	個別ゼミ１０　各グループの研究活動
14	個別ゼミ１１　各グループの研究活動
15	個別ゼミ１２　卒業論文中間発表会
16	個別ゼミ１３　各グループの研究活動
17	個別ゼミ１４　各グループの研究活動
18	個別ゼミ１５　各グループの研究活動
19	個別ゼミ１６　各グループの研究活動
20	個別ゼミ１７　各グループの研究活動
21	個別ゼミ１８　各グループの研究活動
22	個別ゼミ１９　各グループの研究活動
23	個別ゼミ２０　各グループの研究活動
24	個別ゼミ２１　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
25	個別ゼミ２２　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
26	個別ゼミ２３　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
27	個別ゼミ２４　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
28	就職懇談会
29	個別ゼミ２５　卒業論文のまとめ　提出
30	個別ゼミ２６　1年のまとめ
31	個別ゼミ２７　1年のまとめ

科目名:保育・教職実践演習（幼稚園）	担当者:山下　直樹, 小川　雄二, 近藤　茂之, 高田　吉朗, 高須　裕美, 平野　朋枝, 吉見　昌弘, 小川　絢子, 神谷　妃登美, 太田　昌孝, 小柳　雅子, 上原　隆司, 新沼　英明, 吉田　真弓, 杉山　実加, 青山　裕美, 小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
少人数の研究グループによる共同研究を行います。学生は主体的に取り組み、相互に交流、研究を展開します。

授業の到達目標
保育・教育現場の実情と求められる保育実践者としての資質能力の向上を目指します。これまでの2年間で学んできた様々な知識や技能について、教員として必要な資質能力を整理・統合することによって、現在において新人保育者に求められている実践的力量を形成することを目標とします。①使命感や責任感、教育的愛情などの自覚、②社会性や対人関係力、③幼児理解や学級経営などの力量、④保育内容などの指導力、という4つの実践的力量の形成を意識していきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
学内外を問わず、様々な活動に参加しますので、主体的に参加してください。

評価方法
授業への参加姿勢（出席状況も含む）や発表内容、レポートなどを総合的に評価します。

教科書 適宜授業の中で紹介します。	参考図書 幼稚園教育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育実践演習と合わせて、演習を中心とした授業形式で進行していきますが、その中で発表、討論、講義、実技、観察、調査などの方法に積極的な態度で臨むことが将来の保育教育者としての資質を高めていくことになります。日々これらのことを強く意識しながら、将来の自分の姿をイメージしていくことが大切です。

01	教育実践検討会１　（教育実習反省会）
02	教育実践検討会２　（事例研究）
03	幼稚園訪問
04	教材報告会
05	教育実習のまとめと今後の課題
06	年齢別教育実践検討会（グループ討論）
07	保育・教育実践講演会「実践者の講演会」①
08	保育・教育実践講演会「実践者の講演会」②
09	保育・教育実践講演会を受けてのグループ討論
10	卒業生による就職懇談会
11	卒業生による就職懇談会を受けてのグループ討論
12	実践検討会
13	幼稚園訪問など
14	教育実践シンポジウム
15	教育実践シンポジウム
16	まとめ
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	

科目名:英語	担当者:村木　恭子, 新谷　敦子, 山之内　健太	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
本授業は、ディプロマポリシーにある「国際的な視野で地域社会に貢献できる者」と関連している。グローバル化社会の中で、英語を使って子どもや保護者とコミュニケーションを取ったり、積極的に保育活動に英語を取り入れることが出来ることを目的とする。授業ではリスニング・スピーキングに重点を置き、様々な挨拶表現や子ども達に英語を教える際に必要な表現を学習し、さらにグループでスキット練習を行い使えるようにします。

授業の到達目標
これまでに学んできた英語の復習を行いながら、基本的な挨拶表現を理解し、使えるようになる。また、保育現場で使える英語の語彙を増やし、英語で基本的な指示を子どもに対してできるようになる。さらに、子どもと共に楽しめるような英語の歌や絵本に実際に触れ体験することで、子どもと英語を楽しむ事について考え、さらに各自で探索することができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業前には、次回の授業で学習する範囲について、必ず予習（筆記・音読）を行い、授業内容を把握するようにしてください。また、疑問な点や確認したい点を合わせて明確にしておいてください。授業後は、予習及び授業内容を振り返り、復習（筆記・音読）を行いましょう。合わせて授業ノートの振り返りを行い疑問な点が残っていないかもすぐに確認しましょう。また、教科書以外にも保育英語検定の参考図書や、英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　50%　小テスト及び期末試験、プレゼンテーション等の課題　50%（詳細は、各担当者より初回の授業で説明します）

教科書	参考図書
宮田学編・高橋妙子著（2014)『保育の練習帳：単語＆フレーズを覚えよう』萌文書林	副教材及び参考図書については、授業内で各担当者より指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

01	クラス別オリエンテーション、保育英語検定の紹介等
02	Lesson 1 & Lesson 2 （保育所に関連する語彙・表現）
03	Lesson1-2の復習，Lesson 3（挨拶表現、家族に関する語彙・表現）
04	Lesson 4（保育室に関する語彙・表現），保育英語検定について（１）
05	Lesson 5（時間と数字)，プレゼンテーションについて
06	Lesson 6（園児の持ち物に関する語彙・表現)，プレゼンテーションについて
07	Lesson 3-6の復習，プレゼンテーション
08	Lesson 7 & Lesson 8（保育所周辺の道順に関する語彙・表現）
09	Lesson 9 & Lesson 10（子どもの遊びに関する語彙・表現）
10	Lesson 11（天気に関する語彙・表現）・英語の絵本の紹介
11	Lesson 7-11の復習，Lesson 12（感情・体調に関する語彙・表現）
12	Lesson 13（保育の日課），保育英語検定について（２）
13	Lesson 15 & Lesson 16（ランチに関する語彙・表現）
14	Lesson 17（トイレに関する語彙・表現)，夏休みに向けて（旅行や研修で使える英語表現）
15	まとめ
16	期末試験

科目名:保育の英語	担当者:村木　恭子, 新谷　敦子, 山之内　健太, 森川　信子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
本授業は、ディプロマポリシーにある「国際的な視野で地域社会に貢献できる者」と関連している。グローバル化社会の中で、英語を使って子どもや保護者とコミュニケーションを取ったり、積極的に保育活動に英語を取り入れることが出来ることを目的とする。授業ではリスニング・スピーキングに重点を置き、様々な挨拶表現や子ども達に英語を教える際に必要な表現を学習し、さらにグループでスキット練習を行い使えるようにします。

授業の到達目標
前期の「英語」に引き続き、これまでに学んできた英語の復習を行いながら、様々な挨拶表現を理解し、使えるようになる。また、保育現場で使える英語の語彙を増やし、英語で具体的な指示を子どもに対してできるようになる。さらに、子どもと共に楽しめるような英語の歌や絵本に実際に触れ体験することで、子どもと英語を楽しむ事について考え、さらに各自で探索することができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業前には、次回の授業で学習する範囲について、必ず予習（筆記・音読）を行い、授業内容を把握するようにしてください。また、疑問な点や確認したい点を合わせて明確にしておいてください。授業後は、予習及び授業内容を振り返り、復習（筆記・音読）を行いましょう。合わせて授業ノートの振り返りを行い疑問な点が残っていないかもすぐに確認しましょう。また、教科書以外にも保育英語検定の参考図書や、英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　50%　小テスト及び期末試験、プレゼンテーション等の課題　50%（詳細は、各担当者より初回の授業で説明します）

教科書	参考図書
宮田学編・高橋妙子著（2014）『保育の練習帳：単語＆フレーズを覚えよう』萌文書林	副教材及び参考図書については、授業内で各担当者より指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

01	クラス別オリエンテーション、保育英語検定の紹介等
02	Lesson 18（連絡帳，子どもの様子に関する語彙・表現），保育英語検定について（１）
03	Lesson 19（けんかに関する語彙・表現）
04	Lesson 20（体の部位に関する語彙・表現），英語の歌や絵本の紹介
05	Lesson 21 & Lesson 22（怪我と病気、救急処置に関する語彙・表現）
06	Lesson 18-22の復習，保育英語検定について（２）
07	Lesson 23 & Lesson 24（電話応対に関する語彙・表現）
08	Lesson 25（遠足に関する語彙・表現），プレゼンテーションについて
09	Lesson 26（年間行事予定），プレゼンテーションについて
10	Lesson 23-26の復習，プレゼンテーション
11	Lesson 14　（乳児に関する語彙・表現），クリスマスの歌
12	Lesson 27 & Lesson 28（乳児に関する語彙・表現），クリスマスの歌
13	Lesson 29（卒園に関する語彙・表現）
14	Lesson 30（祝日と記念日に関する語彙・表現）
15	まとめ
16	期末試験

2019年度シラバス

科目名:フランス語Ⅰ	担当者:伊奈　友梨子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、英語以外の外国語や外国文化に触れることで、国際的な視野を持つ人材を育てることに貢献します。
教科書に沿って授業を進めます。15回の授業の中で3-4回、単語や会話表現などの確認テストを実施し、授業内容をきちんと理解できているかを確認します。また、授業中に簡単な会話の練習を行います。

授業の到達目標
1.　フランス語の単語が読めるようになる。
2.　フランス語であいさつ、自己紹介ができるようになる。
3.　フランス語で短い文章を読めるようになる。
4.　フランスの文化を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回の復習をきちんと行うこと。特に単語や会話表現をしっかり覚えるように意識して学習してください。

評価方法
定期試験50％（筆記）、確認テスト25％（筆記）、授業への参加態度25％（会話練習など）、総合的に評価します。

教科書	参考図書
トライ！フランス語　-F comme Français- 藤田知子他著、駿河台出版社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業にきちんと参加し、各自復習を実施してください。質問は授業前後に受け付けます。

01	オリエンテーション
02	アルファベ、フランス語の発音
03	つづり字の読み方、あいさつ
04	フランスの文化と社会①（フランスの学生生活）
05	テオとユリが自己紹介します（1）
06	フランスの文化と社会②（フランス雑学）
07	テオとユリが自己紹介します（2）
08	フランスの文化と社会③（カフェ）
09	ユリがテオの店を訪れます
10	フランスの文化と社会④（フランス人の生活観）
11	兄弟・姉妹について話します
12	フランスの文化と社会⑤（ショッピング）
13	テオがユリの妹について尋ねます
14	フランスの文化と社会⑥（レストラン）
15	総復習と確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:フランス語Ⅱ	担当者:伊奈　友梨子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、英語以外の外国語や外国文化に触れることで、国際的な視野を持つ人材を育てることに貢献します。
教科書に沿って授業を進めます。15回の授業の中で3-4回、単語や会話表現などの確認テストを実施し、授業内容をきちんと理解できているかを確認します。また、最後には『星の王子さま』を原文で読むことに挑戦します。

授業の到達目標
1.　フランス語の単語が正しく読めるようになる。
2.　フランス語の基本表現を言うことができるようになる。
3.　フランス語で短い文章を読めるようになる。
4.　フランスの文化を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の復習をきちんと行うこと。特に単語や会話表現をしっかり覚えるように意識して学習してください。

評価方法
定期試験50％（筆記）、確認テスト25％（筆記）、授業への参加態度25％（会話練習など）、総合的に評価します。

教科書	参考図書
トライ！フランス語　-F comme Français- 藤田知子他著、駿河台出版社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業にきちんと参加し、各自復習を実施してください。質問は授業前後に受け付けます。

01	前期の復習①
02	前期の復習②
03	テオはユリを食事に誘います
04	フランスの文化と社会①（フランス人の祝日と週末）
05	二人が週末の予定を話します
06	フランスの文化と社会②（パリ近郊への一日の旅）
07	モン・サン・ミシェルを訪れます
08	フランスの文化と社会③（フランスの世界遺産）
09	モン・サン・ミシェルで満ち潮を待ちます
10	フランスの文化と社会④（フランスの地方都市）
11	テオがユリを両親に紹介します
12	テキストの総復習
13	『星の王子さま』を原文で読む①
14	『星の王子さま』を原文で読む②
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:ポルトガル語Ⅰ	担当者: 富松 エミ	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音・挨拶表現・文法等・基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について・又、日本の幼稚園・保育園・学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及します。（音楽・映画・ブラジルの遊び・幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介をします)

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば。ブラジル料理の店などを紹介したい。

評価方法
（出席・授業の参加度・意欲・関心）２０％・提出物２０％・小テスト３０％・プレゼンテーション３０％

教科書	参考図書
ブラジルを発見ーブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学者（必修）学生の携帯のアプリケー	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、頑張って楽しい授業をするのでいっしょに頑張りましょう。毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

01	ポルトガル語のこととブラジルのこと
02	ポルトガル語の文字と発音１
03	ポルトガル語の文字と発音練習問題
04	挨拶と簡単な日常会話１
05	挨拶と簡単な日常会話２
06	名詞の性と数
07	否定文疑問文
08	ブラジルと日本の違い　・グループ分け
09	4～7の練習問題・グループ発表課題決め
10	ser 動詞1・グループ発表課題について調査
11	ser 動詞2・グループ発表課題について調査
12	形容詞・グループ発表の準備
13	グループ発表とレポート
14	ブラジルの食文化とブラジルの料理作り
15	会話テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:ポルトガル語Ⅱ	担当者:富松 エミ	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音・挨拶表現・文法等・基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について・又、日本の幼稚園・保育園・学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及します。（音楽・映画・ブラジルの遊び・幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介をします)

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば。ブラジル料理の店などを紹介したい。

評価方法
(出席・.授業参加度・意欲・関心)20%・提出物20%・発表30%・期末試験(会話テスト) 30%

教科書	参考図書
ブラジルを発見-ブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学社（必修）学生の携帯電話のアプリケーション（辞書）の使用も可	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、がんばって楽しい授業をするので一緒にがんばりましょう。　毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

01	前期のおさらい
02	所有詞と練習問題
03	命令形と指示詞
04	ＥＳＴＡＲ動詞
05	17～18の練習問題と会話の練習
06	グループで会話作り
07	ＱＵＥＲＥＲ動詞と数詞と会話の練習
08	会話の発表・ＳＥＲとＥＳＴＡＲの違い
09	場所の副詞と時間の言い方
10	20～22の練習問題と会話の練習
11	ＴＥＲ動詞・ブラジルについてのグループ調べ
12	PODER動詞・・ブラジルについてのグループ調べ
13	ブラジルについてのグループ発表
14	ブラジルのお菓子作り
15	会話のテスト
16	

2019年度シラバス

科目名:中国語Ⅰ	担当者:布　和	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　現代中国語の入門講義である。毎回、新しい単語を解説し、本文の会話を繰り返し練習する。必要に応じて文法事項の説明も行う。また、講義の間にビデオなどの映像手段をも使用し、学習内容を印象付けるつもりである。この授業は後期に開講する中国語Ⅱを選択するための必修講義でもある。この授業は名短保育科が掲げるディプロマポリシーの一部である「国際的な視野で地域社会に貢献する」という内容に合致している。

授業の到達目標
　１５回の講義を終えて、学生たちが中国語であいさつができるようになり、辞書を使えば、簡単な日常会話も話せるし、優しい文章も読解できるようになることを目標にしている。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業の前に単語の予習及び授業後の復習を少なくとも1時間程度にしてほしい。

評価方法
　欠席回数が６回になれば、単位を不認定する。成績は、授業参加意欲(50%)と確認テスト(50%)の結果を総合して評価する。

教科書	参考図書
遠藤光暁　監修『入門　ビジュアル中国』朝日出版	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業進度は事情によって多少な変化が生じる。担当教員の連絡先及びオフィスアワーの時間は授業中に知らせる。

01	授業の紹介
02	発音の学習と挨拶①
03	発音の学習と挨拶②
04	発音の学習と挨拶③
05	入学初日
06	中華民族園にて
07	ダイ族の正月
08	旅行
09	小結
10	新しい家
11	兵馬俑を見学
12	西安
13	上海万博
14	小結
15	確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:中国語Ⅱ	担当者:布　和	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:　前期に開講した「中国語Ⅰ」を履修した学生が対象である。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　現代中国語の初級講義である。毎回、新しい単語を解説し、本文の会話を繰り返し練習する。必要に応じて文法事項の説明も行う。また、講義の間にビデオなどの映像手段をも使用し、学習内容を印象付けるつもりである。この授業は前期に開講する中国語Ⅰを選択した上で履修する講義である。この授業は、名短保育科が掲げるディプロマポリシーの一部である「国際的な視野で地域社会に貢献する」という内容に合致している。

授業の到達目標
　１５回の講義を終えて、学生たちが中国語で簡単な日常会話を話せること、また、簡単な文章を読めるようになることを目標にしている。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業の前に単語の予習及び授業後の復習を少なくとも１時間程度してほしい。

評価方法
　欠席回数が６回になれば、単位を不認定する。成績は、授業参加意欲(50%)と確認テスト(50%)の結果を総合して評価する。

教科書	参考図書
遠藤光暁　監修『入門　ビジュアル中国』朝日出版社	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業進度は状況によって多少な変化が生じる。担当教員の連絡先及びオフィスアワーの時間は授業中に知らせる。

01	授業の紹介
02	各国の国名について①
03	各国の国名について②
04	蘇州の園林①
05	蘇州の園林②
06	天壇①
07	天壇②
08	少林寺①
09	少林寺②
10	小結
11	清明節①
12	清明節②
13	喫茶店にて①
14	喫茶店にて②
15	確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:スポーツ	担当者:山下　玲香	開講学科等	保育科
		授業形態	実技
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 バドミントンの実技を中心に、シングルス、ダブルスのゲームを行う。技術として「ハイクリア」、「ドライブ」、「ヘアピン」を習得する。15回目にまとめのテスト（１回）を行う。
授業の到達目標 社会人になっても参加して楽しめるように、バドミントンの技能を習得する。自分たちで試合を運営できるようになる。運動を楽しむ習慣を身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 授業において多くのゲームに参加できるように、基礎的な身体能力を維持・向上させる。
評価方法 授業への参加態度および上達度70%、筆記試験30%

教科書 なし	参考図書 なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 運動にふさわしい服装と上靴を準備する（ピアス不可）。連絡先は授業で開示する

01	ラケットとシャトルに慣れる
02	ハイクリアを学ぶ
03	ハイクリアゲームを考える
04	ハイクリアゲームを教えあう
05	ドライブを学ぶ
06	ドライブを教えあう／ヘアピンを学ぶ
07	シングルスのミニゲーム（縦半面）を実践する
08	シングルスミニゲームを実践する
09	ダブルスを実践する／サイドバイサイド
10	ダブルスを実践する／トップアンドバック
11	ダブルスの簡易ゲームを実践する（7点先取）
12	ダブルスの簡易ゲームを実践する（10点先取）
13	ダブルスの試合①
14	ダブルスの試合②
15	まとめのテスト（教室）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:スポーツ	担当者:富野　順子	開講学科等	保育科
		授業形態	実技
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
生涯スポーツのための選択肢のひとつにできるように、卓球の基本的知識と技術を学ぶ。うまくなるためのポイントを明確にして、受講生相互で協力して練習する。

授業の到達目標
①安定した連続打球ができるようになる。
②ルールを理解し自分たちで審判をして、協力してゲームを進めることができるようになる。
③うまくなるためのポイントを説明できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎日の食事、睡眠など生活習慣に気をつけ、体調を整えて過ごせるように心がける。インターネット、書籍などで卓球の技術やルール、歴史などを調べる。TV、新聞、インターネット、書籍など、卓球その他スポーツに関する話題を、関心を持ってみる。

評価方法
実技課題到達度70%、ルール等確認ミニテスト20%、ミニレポート10%実技形態のため授業への参加態度（欠席等を含む実技不参加の態度）は、総合点より減点する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分自身の身体、生体リズムとの折り合いのつけ方をみつけることを心がけてください。 運動にふさわしい服装、靴、身だしなみで参加してください。TV、新聞、インターネット、実際の試合等をみて、卓球はどのように取り上げられているか、他のスポーツはどのように扱われているかなどに関心を持って欲しいと思います。

01	オリエンテーション／ラケットとボールに慣れる
02	基本技術（バックハンド・フォアハンド）
03	試しのラリー（バックハンド・フォアハンド）
04	基本技術（強打）／制限付き簡易練習ゲーム
05	基本技術（サービス）／シングルスゲーム練習（基本的ルールの理解）
06	シングルスリーグ戦（個人戦） 1
07	課題チャレンジ（連続ラリー　等）／シングルスリーグ戦（個人戦） 2
08	ダブルスゲーム練習（基本的ルールの理解と動き方の工夫）
09	ダブルスリーグ　第１戦（個人戦）
10	ダブルスリーグ　第２戦（個人戦）
11	ダブルスリーグ　第３戦（個人戦）
12	競技種目を知る　団体戦１
13	団体戦２
14	確認ミニテスト／課題チャレンジ（連続ラリー　等）
15	まとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:スポーツ	担当者:安藤　晴彦	開講学科等	保育科
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
生涯を通じてテニスを楽しむための基礎技術、ルールを習得し、ゲームができるようになることを目指した授業を展開する。安全やマナー、クラス全員に配慮して楽しく運動する。

授業の到達目標
・硬式テニスのルールを習得し、試合のプレイや運営（審判等）を行うことができるようになる。
・硬式テニスの基礎技術（フォアハンド、バックハンド、ボレー、サーブ）を習得する。
・サーブが５０％の確率で入る事、続けるラリーが１５往復出来る技術を身に付けよう。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
常日頃から体調の管理や体力の向上を心がけよう。また、テレビ・ネット等でテニスの試合を観ることにより、ルールを覚え、技術のイメージトレーニングをし、また戦術を知ったりしよう。

評価方法
参加状況、技術、姿勢を総合的に判断する。

教科書	参考図書
必要に応じて資料を配布する。	必要に応じて指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
スポーツをするに相応しい服装等で参加する事。主にコミュニケーションを通じた実技方式によって授業を展開する。雨天時等のテニスコートが使用不可の時は、状況に応じて使える施設で運動したり、視聴覚教材・配付資料を用いて授業を行う。

01	オリエンテーション：授業進行・注意事項の説明　　身体慣らし
02	基本：身体慣らし、道具・ボール慣れ
03	基本技術：フォアハンド、バックハンド
04	基本技術：サーブ、（フォアハンド、バックハンド）
05	基本技術：ネットプレイ、（サーブ、フォアハンド、バックハンド）
06	応用：サーブからのラリー
07	応用：ダブルスのルール、ミニゲーム
08	応用：ダブルス・ゲーム
09	応用：ダブルス・ゲーム　　課題：サーブ
10	応用：ダブルス・ゲーム
11	応用：ダブルス・ゲーム
12	応用：ダブルス・ゲーム　　課題：ペアでラリー
13	応用：ダブルス・ゲーム
14	応用：ダブルス・ゲーム
15	まとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:スポーツ健康論	担当者:藤田　公和	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 健康な身体は、人が生活していくうえで最も基本的な要素です。この授業では、女子学生が今後、健康な生涯を過ごしていくために必要な生理学的、医学的、栄養学的、運動学的な最新の情報や知識を伝えていきます。
授業の到達目標 １、健康に関する、最新の正しい情報や知識を理解する。 ２、健康の観点から、自分自身の生活や食習慣、運動習慣を分析する能力を養う。 ３、自分自身や家族の健康な生活に向けて、可能な範囲で日常の生活習慣や環境を改善する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 健康や疾病に関する情報は、新聞や雑誌、テレビ、インターネットなど、様々な形で入手することが可能です。日常の生活の中で、そのような情報に接する機会をできるだけ多く作るようにしてください。
評価方法 小テスト：60%　　小レポート：30%　　授業態度、授業への参加意欲：10%

教科書	参考図書
特になし　教員が作成した資料を使用する。	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) オフィスアワー：火、木、金の昼休み　　fujita-k@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス、現代社会における健康問題、女性のライフステージと健康問題
02	皮膚の健康、日焼け・紫外線対策
03	骨代謝・骨粗鬆症
04	エネルギー代謝、栄養学の基礎知識とダイエット①
05	ダイエット②
06	サプリメント
07	筋肉・筋力、腰痛・肩こり、保育者の職業病
08	体温調節、発汗、冷え症、貧血、低血圧
09	飲酒
10	性・性感染症
11	脳の構造と機能、記憶・学習
12	睡眠
13	脳の病気
14	喫煙、生活習慣病①
15	生活習慣病②　小テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:情報処理演習Ⅰ	担当者:上原　隆司,木村 登次,木下　博光	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 WindowsとMicrosoft Office(Word・Excel・PowerPoint)の基本操作をマスターする。また、電子メールソフトを使った通信や、ブラウザソフトを使った情報検索などの方法をマスターする。
授業の到達目標 保育の現場や、それを取り巻く環境においても、コンピュータを利用した情報処理技術の活用は必須の能力といえる。園だよりや紙芝居などの作成を通じてOffice製品の基礎を習得し、将来保育の場面で必要なときに応用出来るようにする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 情報検索やレポートの作成などを通じて日常的にパソコンを使って慣れることが、使い方をマスターするための近道である。授業で学んだ技術は様々な科目の学習活動等において積極的に活用すること。
評価方法 授業への参加態度 50%、課題レポート・制作物等 50%。

教科書	参考図書 幼稚園教育要領・保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 将来保育者となったときの活用法を意識して学ぶことが大切である。パソコンを使って慣れることが技術習得の近道であるので、苦手だと思う人はパソコンに触れる時間を増やして遊びながら使い方に慣れること。

01	学内e-mailアカウントの設定とメールマナー
02	ファイルの操作と文字入力
03	Wordを使った文書作成と文字修飾
04	Word文書への画像や表の挿入と編集
05	Wordを使った園だより作成１ー段組み、行間の設定、文書のレイアウト
06	Wordを使った園だより作成２ー画像のトリミング、背景の削除、文字列の折返し
07	Wordを使った園だより作成３ーテキストボックスの利用
08	Excelでのデータの入力とセルの書式設定
09	Excelでの簡単な計算式と関数の利用
10	Excelでの簡単なグラフ作成
11	Excelでの名簿の作成、ソートとフィルタリング
12	PowerPointとプレゼンテーション
13	PowerPointプレゼンテーション演習１ーオブジェクトの整列と重ね順
14	PowerPointプレゼンテーション演習２ーアニメーションの設定
15	PowerPointプレゼンテーション演習３ースライドショーを使ったプレゼンテーション

2019年度シラバス

科目名:情報処理演習Ⅱ	担当者:鏡　裕行	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、パソコン演習Ⅰで学んだことを土台とし、現在、また今後、保育の場面で有用となるであろうと思われる情報処理の技術をピックアップし、演習を通じて、それらを保育者となってから使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。特に、デジタル画像・ビデオ編集技術やWebデザイン技術を用いて、効果的に情報を発信、伝達していくための基礎を、実践を通じて学ぶことを重視する。

授業の到達目標
情報処理の技術を学ぶのみならず、身につけた技術を用いて、表現・発信したい内容を自ら企画し、作成し、完成させるという営みを通じ、情報処理の技術を使いこなしていくための基礎を習得することを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
情報処理の目的の一つに、情報検索がある。現在では、この情報検索機能を活用すれば、不明な事項の多くが解決できるようになるといってもよい。パソコンの使用方法等で不明な点があった場合は、是非、この情報検索機能を用いて自ら調べ、解決することを行ってほしい。

評価方法
各課題・制作物：80%、授業への参加態度：20%。

教科書	参考図書
なし。オリジナルの教材を適宜配布。	必要に応じ、授業で指示。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
情報処理技術の習得には、自らによる実践が不可欠である。効果的な情報処理・発信のためには、企画の段階で明確な構想を描くことが重要である。企画と技術の両輪がかみ合うことで、優れた情報処理・発信が可能となる。

01	ガイダンス
02	Word・Excelの応用1：クラスだよりの作成
03	Word・Excelの応用2：オリジナルカレンダー作り１
04	Word・Excelの応用3：オリジナルカレンダー作り２
05	Word・Excelの応用4：オリジナルカレンダー作り３
06	Word・Excelの応用5：オリジナルカレンダー作り４
07	デジタル画像・ビデオ編集1 - 企画
08	デジタル画像・ビデオ編集2 - 撮影1
09	デジタル画像・ビデオ編集3 - 撮影2
10	デジタル画像・ビデオ編集4 - 編集1
11	デジタル画像・ビデオ編集5 - 編集2
12	デジタル画像・ビデオ編集6 - 編集3
13	作成したビデオ作品の鑑賞会
14	Webデザイン1 - HTML文書の基本構造、作成の基本手順
15	Webデザイン2 - 画像（静止画、動画）の扱いとレイアウト、まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:情報処理演習Ⅱ	担当者:上原　隆司	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
園だよりやお知らせ文書などの作成をはじめとして、パソコンを使用した業務は保育に関わる仕事においてその重要性を増してきている。この授業では情報処理演習Iで修得した内容の保育現場での活用方法について演習を通して学ぶ。また、これから修了レポートや卒業論文を執筆するために必要なWordの機能やその成果の発表の方法についても学ぶ。

授業の到達目標
「パソコンの使い方を理解する」だけではなく、「パソコンを自分の目的に合わせて活用することができる」ようになることを目標とする。授業でやったことだけではなく、それを応用して、自分がこれからやる作業をパソコンを使ってどのように効率化できるかを考え、調べ、実行できるようになることを目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
将来保育者となったときに使えるようにするため、授業で学んだことはしっかりと復習し、確実に身につけること。パソコンの使い方で分からないことがある場合、調べて出てこないことはほぼない。普段からパソコンを使うときには、分からないことがあっても自分で調べ、解決できるようになっておくこと。そうすることでパソコンが活用できるかどうかは大きく変わる。

評価方法
授業への参加態度 50%、課題レポート・制作物等 50%。

教科書	参考図書 保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等があれば担当教員の研究室に質問に来ること。

01	Wordを使った論文・レポート作成の基本1
02	Wordを使った論文・レポート作成の基本2
03	スキャナーを利用したチケット作成
04	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り１
05	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り２
06	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り３
07	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り４
08	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り５
09	名簿データと差し込み印刷を利用した年賀状作成
10	お正月の福笑い作り
11	PowerPointを使った電子紙芝居作成１
12	PowerPointを使った電子紙芝居作成２
13	PowerPointを使った電子紙芝居作成３
14	PowerPointを使った電子紙芝居作成４
15	PowerPointを使った電子紙芝居作成５
16	なし

2019年度シラバス

科目名:情報処理演習Ⅱ	担当者:南　裕一郎	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本演習では、「情報処理演習Ⅰ」で学んだWindowsやオフィスソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作をさらに発展・応用させたスキルの習得を目指します。短大では日々のレポート課題、発表レジュメやスライド、就職活動時のメールのやり取りなど、パソコンを使う機会が多いはずです。それに卒業後は、どのような仕事であれPCを使用することになります。スマホも便利ですが、複雑な作業ではPCのほうが圧倒的に有利です。本演習を履修することによって、より高い情報読解力・情報発信力が身につくはずです。

授業の到達目標
Windows、メール送受信、オフィスソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作に加え、本演習では、さらに高度なテクニック（例：Wordの書式設定、Excelの関数、PowerPointのアニメーション）について重点的に学びます。最後の回ではPowerPointを用いてプレゼンテーションをしてもらいます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日ごろからパソコン操作に慣れ親しんでおくこと。とくにタイピングについては、できるだけ速くこなせるように練習しておくこと。

評価方法
授業内で課す課題の提出：70%、毎回の受講態度：30%。
以上の各項目について総合的に評価します。

教科書	参考図書
市販教科書は使用しません。毎回、オリジナルの教科書を配布します。	必要に応じ、授業内で指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業時間外での担当者への連絡・質問等は、基本的にはメールでおこなってください。

01	オリエンテーション：本演習の目的と意義
02	Eメール（Gmail）のつかいかた
03	Eメールでの文章の作法、添付ファイルを挿入する
04	パソコンとはなにか、Windowsとはなにか、役に立つWindows操作
05	Word応用編①　長めの文章を時間内に入力する
06	Word応用編②　ワードアートを作成する、ページ番号を挿入する
07	Word応用編③　図形や画像を挿入する、フォントの種類や大きさを変更する
08	Word応用編④　縦書きと横書き、作成した文書を印刷する（両面印刷や2アップ印刷など）
09	Excel応用編①　簡単な表をつくる、やや複雑な表をつくる
10	Excel応用編②　セル同士の計算をする、関数基本編（SUM、AVERAGE、COUNTなど）
11	Excel応用編③　関数中級編（IF、VLOOKUPなど）、グラフの作成（棒グラフ、折れ線グラフ）
12	Excel応用編④　グラフの作成（円グラフ、散布図、複合グラフ）
13	PowerPoint応用編①　どういうスライド構成にするか、画像・テキストの挿入
14	PowerPoint応用編②　画面切り替え効果、アニメーション、ノート機能
15	PowerPointを用いたプレゼンテーション（全員）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:日本国憲法	担当者:綾部　六郎	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　日本国憲法については、これまでにも中学校・高等学校の「公民科」の授業などで学んできたはずなので、ここではその復習をしながら、わたしたちが学んでいるのが女子大学であることに対応した、もう少し詳しい内容を学習します。

授業の到達目標
　抽象的な憲法の条文に込められている歴史的な理念と、日常的な出来事のなかに潜んでいる憲法上の問題とを正しく結び付けられることが、憲法を学ぶうえでは大切です。　また、教員採用試験などでの出題にも対応できるように準備していきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　憲法に限らず法学の学習にとってまず大切なのは、そこで使われる用語の意味や用法を正しく理解することと、法的思惟の背景にある歴史的叡知の存在を把握しようと努めることだと考えています。詳しくは授業の際にお話しします。

評価方法
1. 確認テストの成績（90%）
2. 任意課題の提出（適宜加点する）
3. 受講態度などの勘案（10%）

教科書	参考図書
開講までに指示します。	授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
座席指定制になります。

01	ガイダンスの実施（授業での約束事などについて説明します。）
02	憲法総論（憲法史・立憲主義・国民主権・憲法改正など）
03	自己決定権／学問の自由【以下人権論】
04	思想・良心の自由／信教の自由
05	教育を受ける権利／プライヴァシー権
06	表現の自由／集会の自由
07	人権享有主体／法の下の平等
08	両性の平等／職業活動・移転の自由
09	財産権／生存権
10	労働基本権／参政権・選挙制度【以下統治機構論】
11	立法・国会／内閣
12	裁判所・裁判員制度／憲法条文解説①
13	司法権の独立と限界／憲法条文解説②
14	地方自治／条例・住民投票
15	授業のまとめなど
16	なし

2019年度シラバス

科目名:異文化研究	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
「異文化研究って何?」「なんだか難しそうな科目名だと思う」例年、1年生から受講前に聞く言葉です。実際は、難しい科目ではありません。保育者としてという以前に一人の人間として視野の広い考え方ができる教育者になってもらいたいと担当者は考えています。世界には様々な異なった視点の価値観や倫理観があります。保育の現場では海外の国から来た子どももいます。大学生として物事への多角的かつ複眼的視野を持つための一つのきっかけとなる教養教育として授業を展開していきます。自らの知識、考え方の幅を広げたい人、海外プログラム参加者予定、就職試験対策等一般教養を強化したい人、等に適した授業です。

授業の到達目標
この授業は【覚える】【暗記する】より【考える】授業です。それはこれから向かう社会人としてどう生きていくか、一人の人間としてそのように人生計画を組み立てて進んでいくか、なども考えます。そうした事を考えることは次の進路である就職活動や試験の場においても役立つように広い項目を扱います。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①図書館の教員指定図書(高橋)に目を通す
②ニュースを見る、新聞を読むように心がける

評価方法
　授業への参加姿勢30%　授業内レポート30%　期末考査40%

教科書	参考図書
『ニューヨークの魔法のかかり方』岡田光世著　2017年　文春文庫	図書館の教員指定図書(高橋)に目を通す。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
常に社会を見つめる意識を持ちましょう

01	異文化研究とは何を学ぶのか
02	1）ステレオタイプ　　2）タブー
03	祭りと伝統 儀式 / 祭り / 伝統～文化の継続性　祭りの意味　名桜祭紹介 儀式 / 祭り / 伝統～文化の継続性　祭りの意味　名桜祭紹介
04	異文化の衝突とは
05	動物と異文化　～　介助犬
06	仏教に見る出家の社会的・文化的価値観とその背景
07	映像文化 ～ その変化と発展
08	ヒンズー教の考え方とそこに根付く文化
09	異文化を超えて～危機管理
10	異文化による死生観の違い
11	日本文化の特徴
12	契約の概念とイスラム教
13	異文化との交流を考える
14	歴史と(異)文化の関係　　歴史とは何か　なぜ保育者になるのか
15	まとめ
16	定期試験

2019年度シラバス

科目名:保育原理	担当者:吉見　昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では高度で実践的な保育と子育ての専門家を目指して保育者として保育の意義を学び、普遍的な子どもの原理・原則と今日の子どもを取り巻く環境に適した柔軟な保育のあり方について学んでいきます。授業の方法は、教科書を中心に基礎的な事項を読んで解説することと、ビデオや実例などをもとに保育の現状を伝えて行きます。授業毎に適宜課題を提示した上で、アクティブ・ラーニングで意見交換や発表をしてもらいます。また回収した課題（用紙）は翌週に押印もしくはコメントの上、返却します。なお、座席は指定し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用します。

授業の到達目標
１　保育の意義について理解し、現代の保育の課題と目指すものを述べることができる。
２　幼稚園・保育所、認定こども園に関する諸制度を理解し、意見を述べることができる。
３　保育の歴史上の人物の実践と思想、保育の専門性について理解し、将来の保育者像を描くことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読んでおいて下さい（授業毎に１時間）。事後学修として教科書で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後に授業の内容をまとめた用紙を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を60%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
はじめて学ぶ人のための保育原理（斎藤裕・吉見昌弘編　北大路書房）	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	保育の意義と現代的課題
03	幼稚園における諸制度
04	幼稚園教育要領
05	保育所における諸制度
06	保育所保育指針
07	幼稚園と保育所の比較
08	幼保一元化の流れ
09	認定こども園
10	保育内容（５領域とねらい、内容）
11	保育形態　－自由保育、一斉保育
12	保育形態　－設定保育、統合保育
13	子どもと自然の関わり
14	保育の歴史と思想　保育者の専門性
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:教育原理	担当者:小栁　雅子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
皆さんは、これまで自分たちが受けてきた「教育」が自分自身にとってどのような意味を持っているのか考えたことはありますか。今後、皆さんは「教育を受ける側」ではなく「教育をする側」として現場に立つことになります。保育者として行う教育の「意味」や「目的」、保育現場における自分たちの役割などについて、この授業で学んでいきましょう。

授業の到達目標
①教育に関わる基本的な概念・理念について理解する。
②教育の歴史的変遷や思想を知る。
③我が国における現代の教育システムを理解する。
④現代の教育が抱える課題とそれに対する教育者（保育者）の役割を考えることができる。
以上の４点を本授業の到達目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回の授業に関わる準備学修は必要ありません。ただし事後学修として、授業内で学んだことを復習し、関連事項や教育・保育に関わる最新情報に、新聞やインターネット、本などで触れるようにしてください。また、それらについて、自分自身の意見を持つことができるようにしてください。

評価方法
①第１回～第14回の授業で実施する授業内課題（10点×14回＝140点）と②第15回の授業で実施する確認試験（100点）の合計点を総合評価します。このうち60％（144点）本科目の単位取得に要する最低点とします。

教科書	参考図書
テキストを配布しますので毎回の授業に持参してください。	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業は講義形式で進みますが、単に教員の話を聞くだけではなく、学んだ事項について自分なりの疑問や意見を持つことが大切です。なお、連絡などの必要性がある場合は、担当教員の研究室までお越しください。

01	授業オリエンテーション＋自分たちが受けてきた教育の振り返ろう
02	教育とは何か①－人間にとっての教育の必要性
03	教育とは何か②－「教えること」と「学ぶこと」の関係性
04	教育とは何か③－家庭教育と学校教育
05	教育とは何か④－現代における教育の意味と教育者（保育者）の役割
06	教育の重要な要素①－子ども観の変遷と教育を受ける権利の重要性
07	教育の重要な要素②－教育の「目的」「内容」「方法」の関係性
08	教育の重要な要素③－教育者（保育者）の専門性
09	教育および教育思想の歴史的変遷①－欧米
10	教育および教育思想の歴史的変遷②－日本
11	我が国の教育システムと制度①－就学前教育から高等教育までの仕組み
12	我が国の教育システムと制度②－公教育を支える制度と行政機関
13	教育を取り巻く現代的課題①－子どもの貧困と教育
14	教育を取り巻く現代的課題②－ゆとり教育の正体と今後必要とされる力
15	確認試験＋最終講義－これからを生きる教育者（保育者）として
16	なし

2019年度シラバス

科目名:社会福祉	担当者:新沼　英明	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】ソーシャルワーカー（社会福祉士）
行政機関でのソーシャルワーカー（社会福祉士）としての経験から、実例をとおして社会福祉の制度の理解を図ることができる。また、子どもの育ちを支える地域社会の役割について、行政の立場から多角的に検討することで、社会福祉の実際をより実践的に理解することができる。

本講義は社会福祉の専門職としての保育士が習得すべき社会福祉に関する法的、制度的知識を教授することを目的とする。社会福祉の制度は非常に複雑でその範囲も広い。本講義では制度等のしくみ（成り立ち）にも言及しながら理解を深める。

授業の到達目標
１．現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
２．社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
３．社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
４．社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。５．社会福祉の動向と課題について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
児童をとりまく環境は、その保護者をとりまく社会経済状況の変化に大きな影響を受けます。普段から社会事象に関心を持つよう、新聞記事等には日常的に接してください。その上で、各回のテーマに即した資料の該当箇所を事前に提示しますので、それらについて事前に目を通すようにしてください。事後にあっては、学修したテーマの概要を簡単にノート等にまとめるようにしてください。

評価方法
課題の提出状況、受講状況（20%）、確認テスト（80%）を基準に総合的に評価します。

教科書	参考図書
福祉の基本体系シリーズ10社会福祉の形成と展開（勁草書房）	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回レジュメを配布します。このレジュメは就職試験等の参考資料としても活用できるように構成していますので、専用ファイル（B5版）を用意し、資料の整理に努めてください。

01	現代社会と福祉
02	社会福祉の歴史的形成
03	社会福祉の法律
04	社会福祉の制度と実施体系
05	住民福祉とボランティア
06	社会福祉従事者とその専門性
07	社会福祉における相談援助
08	社会福祉利用者保護と権利擁護
09	子ども家庭福祉
10	高齢者保健福祉
11	障害者福祉
12	社会保障制度・生活保護制度
13	地域福祉
14	医療福祉
15	社会福祉の今後の展望（まとめ）と確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:子ども家庭福祉	担当者:新沼　英明	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】ソーシャルワーカー（社会福祉士）
行政機関でのソーシャルワーカー（社会福祉士）としての経験から、児童や家庭への支援の実際を紹介しつつ、児童家庭福祉の複雑な制度を実践に即して理解を図ることができる。また、少子化が社会に与える影響と保育者の地域における役割を教授することが可能である。

子どもを取り巻く環境は時代とともに変化し、当然のことながら支援のあり方も変化します。昨今では児童虐待問題や子どもの貧困問題などが顕在化していますが、保育現場で相談援助が必要になった場合に必要な知識を、法律面、制度面を中心に講義します。

授業の到達目標
１．現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
２．児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。
３．児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
４．児童家庭福祉の現状と課題について理解する。５．児童家庭福祉の動向と展望について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
児童をとりまく環境は、その保護者をとりまく社会経済状況の変化に大きな影響を受けます。普段から社会事象に関心を持つよう、新聞記事等には日常的に接してください。その上で、各回のテーマに即した資料やテキストの該当箇所を事前に提示しますので、それらについて事前に目を通すようにしてください。事後にあっては、学修したテーマの概要を簡単にノート等にまとめるようにしてください。

評価方法
中間に行う小レポート20％、確認テスト80％

教科書	参考図書
「保育実践と児童家庭福祉論」（勁草書房）	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回、穴埋め式のレジュメを配布します。B５版のフラットファイルなどを用意し、資料の整理に努めてください。

01	オリエンテーション、児童家庭福祉を学ぶ意義と目的
02	現代社会と児童家庭福祉
03	児童家庭福祉の歴史的展開
04	児童の人権擁護と児童家庭福祉
05	児童家庭福祉の法律と行財政
06	児童家庭福祉の実施機関・施設と専門職
07	少子化と子育て支援サービス
08	母子保健と児童の健全育成
09	多様な保育ニーズへの対応
10	児童虐待、ドメスティック・バイオレンス
11	社会的擁護
12	障害のある児童への対応
13	非行への対応
14	子ども・子育て支援と児童家庭福祉の推進
15	保育と児童家庭福祉、確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:社会的養護Ⅰ	担当者:川上　知幸	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 昨今、児童虐待事件がメディアにも大きく取り上げられ、重要な社会問題として注目されている。社会的養護の意義はより一層高まっているが、課題も多く残っている。本講義では、社会的養護に関する基礎知識を学びながら、児童養護施設や児童相談所など現場の現状と課題について検討、考察していく。 講義（パワーポイント使用）を中心とするが、グループディスカッションなどを取り入れ、意見交換を行うことで理解を深めると共に考える力を養っていく。
授業の到達目標 社会的養護に関する基礎知識を習得する。 児童虐待やその他の困難に直面する子ども・家族の実態や課題について理解する。 子どもや家族への支援の在り方や課題について多角的に理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 各自、教科書を用いて自己学習し、基礎知識の習得に努力すること。また、児童関連の文献や新聞などで学生自身で情報収集を心がける。 特に「児童虐待」「愛着：アタッチメント」「発達障害」についての情報、基礎知識を頭に入れておくと授業内容の理解と考察がより一層深まる。
評価方法 確認テスト：60%　中間レポート：20%　授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20%

教科書	参考図書
児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション
02	児童虐待問題の現状と法制度
03	児童虐待への対応と課題
04	性的虐待とDV
05	アタッチメント
06	社会的養護の役割
07	児童養護施設の現状と課題
08	事例①（グループディスカッション）
09	施設におけるケア実践
10	日本の子ども家庭が抱える課題と歴史的背景
11	事例②（グループディスカッション）
12	発達障害と愛着障害
13	発達障害児への支援
14	総括（リフレクション、フィードバック）
15	確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:社会的養護Ⅱ	担当者:川上　知幸	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 社会的養護の現状と課題、また適切な支援方法について事例から検討する。子ども・家族への個別対応のセオリーを学ぶ他、多職種連携を基盤とするチーム支援の実際と課題について理解を深める。 具体的な事例をもとに事例検討を行う。グループ討議、クラス討議を組み合わせながら意見交換を行い、事例に対する見立てと手立てを考える。
授業の到達目標 社会的養護における支援の実際を事例を通して体感する。 活発な意見交換を通して、多様な考え、価値観に触れ、事例を多面的に捉えられるようになる。 他者との協働（チーム支援）によって支援することの意義や必要なスキルについて学ぶ。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 社会的養護Ⅰで学んだことの復習を事前に行っておくこと。 事例の提示や問題提起を事前に行う場合があるが、それらについて各自でしっかり考えた上で授業に臨むこと。 「社会的養護」「児童虐待」関連のニュースは、こまめにチェックしておくこと。授業内でディスカッションを行う場合もある。
評価方法 確認テスト：60%　中間レポート：20%　授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20%

教科書	参考図書
なし（必要に応じてプリントを配布する）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション
02	社会的養護の子どもたちの実際
03	事例検討①（グループディスカッション）
04	虐待する親の心理と背景
05	事例検討②（グループディスカッション）
06	児童養護施設における治療的養育
07	総括（ディスカッション）
08	確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:社会的養護Ⅱ	担当者:白石　雄二	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:出席日数を満たしていること		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 事例を基に、下記授業計画の内容を随時、説明、考察する。
授業の到達目標 養護に対する現場実践の現状を知り、考察することで、現場の臨場感を感じ、より実践的な知識を得る。その過程を通じて、自分の振り返り作業を行う。そうすることにより、より実践的な力を身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 授業後、授業内容を、自分の日常生活と切り結ぶ作業を行う。
評価方法 定期試験（レポート提出）の結果50%　小レポート30%数回実施＝意見・感想を書いて頂きます。）授業態度20%

教科書	参考図書
なし	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 連絡方法　教務課を通じてわたくしにご連絡ください、折り返しご連絡差し上げます。アドバイス 自分の身の回りで起こっていることについてと、そのことにどう取り組むかについて考えます。

01	オリエンテーション・社会的養護の意義 □ オリエンテーション・社会的養護の意義
02	施設養護の職員・施設養護の種類・形態
03	施設養護の日常的援助・個別支援１
04	施設養護の日常的援助・個別支援２ 施設養護の日常的援助・個別支援２
05	入所から退所までの自立支援１ 入所から退所までの自立支援１
06	入所から退所までの自立支援２
07	保育園と児童養護施設の違い・共通点
08	保育園と児童養護施設の違い・共通点 子どもの権利
09	家庭支援の意義
10	施設と地域社会・関係諸機関との関わりｐ
11	発達障害と治療的支援
12	施設運営と財政措置
13	施設養護における援助技術
14	職員の専門性・施設職員になるために
15	社会的養護の課題
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育者論	担当者:小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
この授業科目は、元保育園長の経験を踏まえ、保育者とは何か保育実践をもとに具体的に考えることができるようにする。保育者として子どもともに生活することを職業として選択するということがどういうことなのか自問自答しながら、保育者の役割、保育の専門性およびについて、保育所での実践体験を語ったり、実際の実践例や事例などを通して学ぶ。また、保育者であると同時に一人の人間として自分の生き方や考え方について常に省察することを意味づける。

授業の到達目標
保育者として子どもともに生活することを職業として選択するということがどういうことなのか自問自答しながら、保育者の役割、保育の専門性およびについて実践例や事例などを通して学び、保育者になるという自覚を深める。また、保育者であると同時に一人の人間として自分の生き方や考え方について常に省察することができるようにし、保育者の役割について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　関連文献を前期に1冊は読むこと。子ども、教育､保育、家庭に関する新聞記事などに関心を持つ。保育者をめざすという自覚を持って授業に臨むこと。子どもとかかわることを積極的に行い、子どもへの理解を深める。

評価方法
定期試験50%、授業中の課題、小テスト30%　毎回の授業の振り返り20%

教科書	参考図書
保育者になるための道しるべ(学文社)幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育保育要領	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　子どもを取り巻く環境の変化や保育に関する社会の動きに関心を持ち､自ら調べたり考えたりするように努力すること。

01	授業の概要・方針
02	保育とは何か
03	保育者の役割・使命　保育者になるには
04	幼稚園、保育所の歴史、制度　認定こども園について
05	保育者の仕事と役割①　幼稚園教育要領、保育所保育指針　教育保育要領にみる役割
06	保育者の仕事と役割②　　子どもと生活するうえで　子どもを観る目
07	保育者の仕事と役割③　　職員、保護者、子ども、地域との関連について
08	保育の専門性①　子どもの発達を理解する(乳児)
09	保育の専門性②　子どもの発達を理解する(幼児)
10	保育の専門性③ 子どもを守る(子どもの人権に関する法令など)
11	保育の専門性④ 家庭に問題を抱える子どもへの支援
12	保育の専門性⑤ 特別に支援が必要な子どもへの支援
13	保育者の資質と力量①　ちょっと実践してみよう　保護者に子どものことを伝える 保育者の資質と力量②　ちょっと実践してみよう　カリキュラムについて考えてみよう 保育者の資質と力量①　ちょっと実践してみよう　保護者に子どものことを伝える 保育者の資質と力量②　ちょっと実践してみよう　カリキュラムについて考えてみよう 保育者の資質と力量①　ちょっと実践してみよう　保護者に子どものことを伝える
14	保育者の資質と力量②　ちょっと実践してみよう　カリキュラムについて考えてみよう
15	理想の保育者を見つけよう(まとめにかえて)
16	定期試験

2019年度シラバス

科目名:教育心理学	担当者:小川　絢子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの発達と心理を理解し、保育・教育実践に生かす力を育てるための授業です。授業の柱は以下の3点です。
①乳児期と幼児期の子どもの発達および心理、②現代の生活や遊びを通した子どもの経験や学習、③子どもの発達や学習における大人の役割。

授業の到達目標
この授業の目標は、保育実践に関わる教育心理学の基礎的な知識を習得することです。特に、授業概要で述べた3つの観点について理解することを目標とします。
①乳児期と幼児期の子どもの発達および心理、②現代の生活や遊びを通した子どもの経験や学習、③子どもの発達や学習における大人の役割。また、日常的な子どもの姿から、子どもの発達や心の動きを感じ取る力を身に付けてほしいと思います。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃から子どもに対する自分の関わりについて振り返り、授業での学習と結びつけて考えることを心がけてください。自分自身が子どもに関わった経験を考察を行う等の時間を、15回の授業期間中に3回程度、各30分程度とることが望ましいです。事後学修としては、配布したプリントや感想のまとめ等を読み返し、理解を確実なものにしておきましょう。15回の授業期間中に3回程度、各1時間程度事後学修を行うことが望ましいです。

評価方法
確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）、毎回の授業で提出してもらうワークシート等の内容から、総合的に評価します。授業参加態度が一定の基準を満たさない場合、原則として、確認テストの受験資格はありません。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
詳細は初回の授業にてお知らせします。

01	イントロダクション― 保育実践において教育心理学を学ぶ意味
02	乳児期①― 運動機能および感覚機能の発達
03	乳児期②― 愛着と基本的信頼感の形成
04	乳児期④― コミュニケーションの発達
05	乳児期における生活・あそびと大人の役割
06	幼児期前半①― 1歳半の節目、乳児期から幼児期へ
07	幼児期前半②― 認知とことばの発達
08	幼児期前半③― 自己理解の発達
09	幼児期前半④― 対人関係の発達
10	幼児期後半①― 認知とことばの発達
11	幼児期前半②― 自己理解の発達
12	幼児期前半③― 対人関係の発達
13	幼児期における生活・あそびと大人の役割①
14	幼児期における生活・あそびと大人の役割②
15	授業のまとめと確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:子ども家庭支援の心理学	担当者:小川　絢子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 子どもや保護者の心理を多面的に深く理解し、保育・教育実践に生かす力を育てるための授業です。子どもの発達を踏まえた上で、保育・幼児教育の実践が与える子どもへの影響について考えます。授業の柱は以下の4点です。 ①生涯発達について理解する、②家族・家庭の意義や機能と親子や家族関係を発達的な視点で捉える、③子育て家庭をめぐる社会的状況について理解する、④子どもの精神保健とその課題を理解する。グループワークを行う回があります。
授業の到達目標 この授業の目標は、保育実践に関わる教育心理学の基礎的な知識を習得することです。特に、授業概要で述べた3つの観点を理解することを目標とします。 ①教育心理学の理論をふまえた保育・幼児教育の実践を理解する、②現代の生活や遊びを通した子どもの経験や学習について理解する、③子どもや保護者の理解を踏まえた発達援助を考える。また、実習等で行った自らの子どもへの関わり方を振り返る力を身に付けてほしいと思います。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 日頃から子どもに対する自分の関わりについて振り返り、授業での学習と結びつけて考えることを心がけてください。自分自身が子どもに関わった経験を考察を行う等の時間を、16回の授業期間中に3回程度、各30分程度とることが望ましいです。事後学修としては、配布したプリントや感想のまとめ等を読み返し、理解を確実なものにしておきましょう。16回の授業期間中に3回程度、各1時間程度事後学修を行うことが望ましいです。
評価方法 確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）、毎回の授業で提出してもらうワークシート等の内容から、総合的に評価します。授業参加態度が一定の基準を満たさない場合、原則として、確認テストの受験資格はありません。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 詳細は初回の授業にてお知らせします。

01	イントロダクション― 子ども家庭支援の心理学とは何か
02	生涯発達① 児童期の発達
03	生涯発達② 青年期の発達
04	生涯発達③ 成人期から老年期の発達
05	家族・家庭の理解① 家族の意義と機能
06	家族・家庭の理解② 親子関係の理解
07	家族・家庭の理解③ 家族関係の理解
08	家族・家庭の理解④ 子育ての経験と親としての育ち
09	子育て家庭に関する現状と課題① 子育てを取り巻く社会的状況
10	子育て家庭に関する現状と課題② ライフコースと仕事・子育て
11	子育て家庭に関する現状と課題③ 多様な家庭とその理解
12	子育て家庭に関する現状と課題④ 特別な配慮を要する家庭
13	子どもの精神保健とその課題① 精神保健とは
14	子どもの精神保健とその課題② 子どもの生活・生育環境とその影響
15	子どもの精神保健とその課題③ どもの心の健康に関わる問題
16	授業のまとめ

2019年度シラバス

科目名:子どもの保健	担当者:亀山　麻衣子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本講義は、子どもの心身の健康や発達に応じた保育行動の基礎知識を習得するだけでなく、多様化する家族の在り方から子どもと家族の健康支援に関する知識も習得できる講義を行います。本講義は視聴覚教材も用いて、子どもの発達や多様化する家族の在り方に応じた保健行動がイメージできるよう、学習目標に沿った講義を実施します。また、講義内でグループディスカッションの時間も取り入れていきます。積極的に参加することで、より深い理解と気づきを得ることができます。

授業の到達目標
１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する
２．子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する
３．子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する
４．子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
本講義に関連する子どもの心身の健康や発達、保健活動、多様化する家族の在り方について、多くの書籍や新聞、何かしらのドキュメントなどに積極的に目を通すようにしてください。

評価方法
講義レポートの提出と出席態度（40%）、確認テスト（30%）、課題レポート（30%）で評価し、全体の60%以上で合格となります。出席態度については、講師が授業妨害と感じた行動や私語について、同日内に2回以上注意した場合に減点対象とします。

教科書	参考図書
講義時に適宜指示します	講義時に適宜指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
わからないことをそのままにせず、すぐに調べる習慣を身に付けてください。また、それでもわからない場合や講師の見解を聞きたい場合には、講義前後に遠慮なく聞きに来てください。

01	オリエンテーション　~本講義の概要、評価方法と基準について~
02	子どもの心身の健康と保健の意義①　生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 子どもの心身の健康と保健の意義①　生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
03	子どもの心身の健康と保健の意義②　健康の概念と健康指標
04	子どもの心身の健康と保健の意義③　現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
05	子どもの心身の健康と保健の意義④　地域における保健活動と子ども虐待防止
06	子どもの身体的発育・発達と保健①　身体発育及び運動機能の発達と保健
07	子どもの身体的発育・発達と保健②　生理機能の発達と保健
08	子どもの心身の健康状態とその把握①　健康状態の観察
09	子どもの心身の健康状態とその把握②　心身の不調等の早期発見
10	子どもの心身の健康状態とその把握③　発育・発達の把握と健康診断
11	子どもの心身の健康状態とその把握④　保護者との情報共有
12	子どもの心身の発達と保健　まとめと確認
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応①　主な疾病の特徴
14	子どもの疾病の予防及び適切な対応②　子どもの疾病の予防と適切な対応
15	総括
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育内容総論	担当者:岡林　恭子, 山田　初枝, 吉田　真弓	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における教育・保育の基本に基づいて、総合的に指導するという考え方を理解する。また幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。そして教育・保育内容を実践に即して総合的にとらえることができるように、ＤＶＤ教材を活用したり、グループにおける話し合いや発表をしたりしながら具体的に学ぶ。
授業の到達目標 ・乳幼児期の教育・保育においては、子どもの内面を理解することが一番の出発点であることを理解する。 ・乳幼児から幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をイメージし、総合的な指導の在り方や、保育者の役割を理解する。 ・乳幼児の興味や関心や発達に応じた具体的な指導の在り方を、事例を通して理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 子ども・子育て支援新制度がスタートした今日、ニュース・新聞等における情報に関心を向け、自分の考えをもつようにしよう。
評価方法 筆記試験６０％、授業の振り返り２０％、授業態度２０％による総合評価

教科書 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領	参考図書 幼稚園教育要領　　幼稚園教育要領解説　　保育所保育指針
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	乳幼児期の教育・保育の基本を踏まえ、子どもの内面理解の大切さを理解する。
02	歴史的背景を捉えながら、教育・保育の基本を理解する。
03	乳児期の保育に関わるねらい及び内容を踏まえて、総合的に教育・保育を行う重要性を理解する。
04	満１歳以上満３歳未満児の保育に関するねらい及び内容を踏まえて、総合的に教育・保育を行う重要性を理解する。
05	満３歳以上児の保育に関するねらい及び内容を踏まえて、総合的に教育・保育を行う重要性を理解する。
06	乳幼児の興味・関心や発達に応じた具体的な指導の在り方を理解する。―視聴覚教材を通して―
07	３歳児の興味・関心や発達に応じた具体的な指導の在り方を理解する。―視聴覚教材を通して―
08	４歳児の興味・関心や発達に応じた具体的な指導の在り方を理解する。―視聴覚教材を通して―
09	５歳児の興味・関心や発達に応じた具体的な指導の在り方を理解する。―視聴覚教材を通して―
10	幼児教育における教育課程・指導計画の在り方や指導法について学ぶ。
11	事例を通して幼児理解を深め保育者としての関わり方を学び、教育・保育に対する評価の重要性を理解する。
12	事例を通して幼児理解を深め、保育者としての関わり方をグループで話し合い発表する。
13	具体的な幼児の姿と関連づけながら環境を構成し、保育者の援助を考え実践するための知識や技能を身に付ける。
14	具体的な幼児の姿と関連づけながら環境をイメージし、指導案作成の方法及び評価の在り方について学ぶ。
15	幼児期の教育・保育と小学校教育との発達や学びの連続性をふまえた円滑な接続について理解する。
16	定期試験

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と人間関係」	担当者:神谷　妃登美, 吉田　真弓	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
　この授業は、幼稚園教育要領・保育所保育指針が示す「人間関係」の領域についての理解を深め、実践に向けての指導力を身に付けることを目的とする。乳幼児期の人と関わる力の発達を理解するとともに、保育者はどのように援助していくとよいか考えていく。
　授業では、基礎的なことを学んだ後で視聴覚教材や事例をもとにグループ討議を行い、他の人の意見を聞くことで多様性を身に付けられるようにする。

授業の到達目標
①　幼稚園教育要領・保育所保育指針の「人間関係」の領域に示されているねらいと内容を理解する。
②　乳幼児期の人との関わりの発達について理解する。
③　人と関わる力を育むための保育方法を考えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業計画を見て、幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説の授業に関係する箇所に目を通しておく。
・乳幼児期の発達について基本的なことを復習したり、事例を読み返して自分の考えをまとめたりしておく。
・ボランティアなどを通して、乳幼児と関わる体験をするように心掛ける。

評価方法
授業への参加態度・ミニレポート　30%　　課題　20%　　テスト50%

教科書	参考図書
レジュメ等を配布	幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に積極的に参加し、自分の考えを発表したり自分とは違った考えを取り入れたりしながら、保育者としての力量を身に付けてほしい。

01	オリエンテーション、領域「人間関係」の考え方
02	子どもの人間関係をめぐる課題
03	領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」
04	乳幼児期の人との関わりの発達
05	乳幼児期の人との関わりの発達
06	遊びの中の友達との関わり　①
07	遊びの中の友達との関わり　②
08	遊びの中の友達との関わり　③
09	人との関わりを育てる保育者の役割
10	いざこざから生み出されるもの
11	規範意識・道徳性の芽生え
12	協同性の育ち
13	地域の人々との関わり
14	保護者と保育者の人間関係
15	園内の人間関係　確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:国語	担当者:太田　昌孝	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 童話や昔話（伝説）を教材に用いながら、保育者に必要な感受性ならびに基礎的な国語力の育成を主眼に置いた講義を展開する。 講義形式の授業を根幹とするが、読後感および要約などについて、受講者に発表させる機会を設ける。
授業の到達目標 ①　保育者として不可欠な豊かな言語感覚と論理的思考力を身につける。 ②　保育現場で教材として用いる童話の構成および特性について学ぶ
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 ①　日頃から童話や昔話（伝説）に関心を持ち、読む習慣の育成に努める。 ②　日頃から日記や読後感などを書くことを心がけ､作文能力の錬磨に努める。
評価方法 受講態度(20ﾊﾟｰｾﾝﾄ)・レポート(80ﾊﾟｰｾﾝﾄ)を総合的に評価する。

教科書	参考図書
プリントを使用します。	『遠野物語』（柳田国男）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ① 系統的な講義なので欠席をしないようにして下さい。

01	オリエンテーション（保育者に必要な国語力について講義する。）
02	保育と国語①（童話・昔話・伝説の基礎知識について講義する。）
03	保育と国語②（実習生として保育者として身につけておきたい国語力について講義する。）
04	保育と国語②（実習生として保育者として身につけておきたい国語力について講義する。）
05	昔話の世界①（『浦島太郎』をDVDで鑑賞し、作品の背景について講義する。）
06	昔話の世界②（『桃太郎』をDVDで鑑賞し、作品の背景について講義する。）
07	昔話の世界③（『鬼っ子人っ子』をDVDで鑑賞し、作品の背景について講義する。）
08	昔話の世界④（『そうめん地蔵』をDVDで鑑賞し、作品の背景について講義する。）
09	昔話の世界⑤（『河童のくれた妙薬』をDVDで鑑賞し、作品の背景について講義する。）
10	昔話の世界⑥（『かさじぞう』をDVDで鑑賞し、作品の背景について講義する。）
11	童話の世界①（宮沢賢治の生涯と作品について講義する。）
12	童話の世界②（『どんぐりと山猫』【宮沢賢治】を読み、作品分析を試みる。）
13	童話の世界③（『どんぐりと山猫』【宮沢賢治】について保育の視点からグループ討議をする。
14	童話の世界⑤（『セロ弾きのゴーシュ』【宮沢賢治】について保育の視点からグループ討議）
15	まとめ：保育者に必要な国語力を身につけるために。
16	なし

2019年度シラバス

科目名:算数	担当者:上原　隆司	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教科「算数」は、小学校から導入されるが、数、量、図形の概念などの初歩的理解については様々な遊び等を通じて幼児の頃から形成される。
このような観点に立ち、小学校算数の内容と指導法をふまえつつ、幼稚園教育要領、保育所保育指針に記されている算数的能力の基礎になる到達目標を理解し、幼児期における算数的能力の習得の意味について考察する。
また講義では、各項目に関わる例題を豊富に取り上げ、演習を通して算数およびその背景にある数学の深い理解も目指す。

授業の到達目標
算数の項目ごとの深い理解を第一目標とし、それらの内容の基礎の幼児期における理解についての考察を通し、幼児教育と保育での活動に算数的内容をどう取り入れていくかについての考え方の基礎を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業前に学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の中の算数的活動の内容について理解するとともに、配布された演習問題についても解いておくこと。
授業後は、演習問題の解法について復習するとともに、学んだ内容に関して幼児教育、保育での活動にどう取り入れていくかについて自分なりに考察すること。

評価方法
15 回目に行う確認テストの点数で評価する。

教科書	参考図書 幼稚園教育要領・保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
子どもに算数を教えるにあたっては、教える側の深い理解が大切である。
分からないことがあれば担当教員の研究室に質問に来ること。

01	算数教育の目標 - 小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針からの考察
02	数と計算1
03	数と計算2
04	数と計算3
05	数量関係1
06	数量関係2
07	数量関係3
08	量と測定1
09	量と測定2
10	量と測定3
11	図形1
12	図形2
13	図形3
14	幼児期における数量的遊び
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:音楽Ⅰ（ピアノ・楽典）	担当者:	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育者に必要な音楽技能の一つであるピアノ実技と、保育現場で求められる子どもの歌弾き歌い、加えて楽典（平易な音楽理論）を学ぶ。
オリエンテーション期間に配布するアンケートにより個々の音楽経験を調査し、それを経て第１回授業後にクラス編成を行い掲示にて発表する。
担当教員による個別指導のもとに１年間の目標を定め、常時練習計画を立てながら学修を進める。
尚、前後期とも、演奏の発表および楽典の筆記テストを行う。

授業の到達目標
バイエル教則本（～No.104まで）の修了、および子どもの歌弾き歌い（別紙、本学指定30曲から）を学修し、着実に自分の「モノ」になるように努力する。
また、マーチ（進行曲集）も採用試験の課題や現場でよく取り上げられるため、他の課題と並行して可能な限り多くの曲を学修すること。
また、楽典については読譜のために必要な最小限の音楽知識を身につけ、現場へ出てからも自分自身の力で作品を正しく解釈し、子どもたちに指導できるようにすること。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自宅にピアノを所有していない学生は、学内の練習室を授業前、昼休み、授業後等の空き時間を有効活用し、日々の練習を欠かさず行うこと。
また、ピアノを所有している学生も、その環境に甘んじず練習に専念すること。
各期、初回授業に配布する「レッスンノート」に毎回の受講曲と指導後の反省を記録し、必ず担当教員の印を受けること。
記入が無い、あるいは十分でない場合は、書き直しまたは受講ができないことがあるので、各自注意すること。
また、楽譜に目を通し「読む」習慣を身につけることにより、ピアノが常に身近になくとも、目の前の課題曲

評価方法
授業の参加意欲・態度、課題の進行度合い30%　発表（実技）50%　楽典（筆記テスト）20%

教科書	参考図書
レッツ・プレイ・ザ・バイエル（圭文社刊）、幼児の歌130選（繁下和雄編　全国社会福祉協議会刊）進行曲集（大阪開成館刊）、随時配布するプリント他	ブルグミュラー25の練習曲（全音楽譜出版社）など、各種ピアノ曲。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
予習と復習を怠らないこと。担当教員への礼節をわきまえること。日頃から様々なジャンルの音楽に接し、特に割引が有効な、特に実際の演奏を聴き感性を磨く ことが望ましい。尚、夏期休業前にバイエル80番程度に学修が到達していない学生は、補習指導を行う。また、後期授業終了時までにバイエルが修了しない場合は、単位修得ができないことがある。

01	実技クラス編成調査、楽典のためのガイダンス
02	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
03	レッスン授業（バイエル）、楽典
04	レッスン授業（バイエル）、楽典
05	レッスン授業（バイエル）、楽典
06	レッスン授業（バイエル）、楽典
07	レッスン授業（バイエル）、楽典
08	レッスン授業（バイエル）、楽典
09	レッスン授業（バイエル）、楽典
10	発表曲の決定、楽典
11	発表曲レッスン、楽典
12	発表曲レッスン、楽典
13	発表曲レッスン、楽典
14	発表前リハーサルおよびレッスン
15	発表曲の確認テスト
16	楽典の筆記試験
17	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
18	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
19	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
20	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
21	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
22	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
23	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
24	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
25	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典

26	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
27	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
28	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
29	発表前リハーサルおよびレッスン
30	課題曲の発表
31	楽典の筆記テスト

2019年度シラバス

科目名:図画工作	担当者:高田　吉朗,山本　辰典,淺野　皆子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの造形表現を題材にしながら、造形素材についての研究や正しい道具の扱い方、造形原理を学びます。
平面と立体の実技を半期ごとに体験することで、特定分野の苦手意識を克服し、様々な表現方法を学びます。

授業の到達目標
様々な素材の特徴と表現の方法を知り、つくることの楽しみと造形活動を通して子どもと関わることの重要性を認識する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業内に完成できなかった人は時間をみつけて制作すること。
常に子どもにどう伝えるかを想定しながら制作すること。
教科書を使った調べ学習。

評価方法
作品の評価(演習レポート、スケッチブック等を含む)40%、出席状況を含めた受講態度60%

教科書	参考図書
「造形活動おまかせガイド」明治図書	「保育に役立つ絵画あそび技法百科」ひかりのくに、「子供の表現力をグングン引き出す造形ハンドブック」明治図書、「0～５歳児の楽しさはじける表現あそび」明治図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
知的好奇心を養うことが大切です。柔軟な発想と興味の対象を追求する姿勢を心掛けましょう。

01	オリエンテーション、自己紹介カード制作 / 子供にとっての造形(全体説明)
02	三原色で色遊び / やきものの基本(土鈴)
03	紙を使った表現 / やきものの基本(筒人形)
04	平面技法1(ビー玉転がし・バチックなど) / 凧
05	平面技法2(紙版画・マーブリングなど) / お面（説明・構想)
06	平面技法3(スタンピング・コラージュなど) / お面(制作)
07	ポップアップカードの制作1 / お面(着色)
08	ポップアップカードの制作2 / お面(着色、完成、講評)
09	壁面制作1(班分け、内容決め) / 牛乳パックによる工作（説明・構想)
10	壁面制作2(個人部分制作) / 牛乳パックによる工作（制作)
11	壁面制作3(飾り付け) /　牛乳パックによる制作（制作・完成・講評)
12	壁面制作4(発表、講評) / ペットボトルによる明かり（説明・構想)
13	紙を使った表現　/　ペットボトルによる明かり（制作)
14	木を感じる・スケッチ　/　ペットボトルによる明かり（制作・完成・講評)
15	共同制作「木をかこう」 / 作品発表・鑑賞・講評・まとめ
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	

2019年度シラバス

科目名:乳児保育Ⅰ	担当者:小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　乳児及び1歳以上3歳未満児の姿を十分に認識し、乳児及び1歳以上3歳未満の子どもがが有能な存在であることを理解する等、乳児保育の基本について考える。講義を聞くことに留まらず、調べ学習や討論などを行い、乳児保育に対する自分の考えやあり方をまとめ、乳児保育についての保育観を伝えることができるようにする。

授業の到達目標
　保育現場における乳児及び1歳から3歳未満児の保育に関する基本的事項や保育のねらいや内容について考え、保育を実際に展開できるような乳児保育における基本的な保育の力(理論習得、保育の実際の方法、教材の研究等）を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　赤ちゃんへの関心を深めるために、図書館などで、乳児保育の最新情報を入手する。自分がどんな保育がしたいのか、考えるために身近なところでボランティアなど自主的に行うようにする。
座学で学んだことは、必ず復習するようにして、最新的な知識や技術を習得できるように努力する。
主体的な学びを重視するので、小レポート作成や、調べたものを発表する時間を設定して、アクティブに学ぶ機会を多く取り入れる。

評価方法
定期試験　50%　調べ学習のまとめや発表30%　授業の振り返り20%

教科書	参考図書
乳児保育－子ども・家庭・保育者が紡ぐ営みー　教育情報出版	保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
調べ学習や授業の振り返り、小レポートは、毎回提出を求める

01	イントロダクション　授業の進め方
02	乳児保育とは何か
03	乳児保育の考え方の変遷と成立
04	乳児保育を支える基本　乳児保育 乳児保育の基本　　0歳児の子どもと保育
05	乳児保育の基本　　1歳児～3歳未満児の子どもと保育
06	生後0か月～6か月未満児について
07	生後6か月～1歳未満児について
08	1歳～2歳未満児について
09	2歳～3歳未満児について
10	乳児保育の実際
11	1歳～3歳未満児保育の実際
12	乳児保育・1歳～3歳未満児の計画
13	乳児保育・1歳～3歳未満児の記録と評価
14	家庭・保育園・地域における子育て支援
15	まとめとこれからの乳児の保育
16	定期試験

2019年度シラバス

科目名:子どもの健康と安全	担当者:中島　志保	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
子どもの日々の健康観察や集団全体での健康支援を通し、保育における保健活動について学習します。関連するガイドラインに基づき保育における衛生管理や事故防止・安全対策・災害への備えについて場を想定しながら学習を進めます。また保育における感染症対策や緊急時における対応について具体的に実践し対応を身に付けます。グループの中で役割分担をして実施することにより、保育者間における連携についても考えていきます。

授業の到達目標
１．子どもの健康に関する個別対応と集団全体への健康支援について理解する。
２．保育の場を想定した事故防止や安全対策について述べることができる。
３．子どもの緊急時における対応について理解し行動を述べることができる。
４．グループの中での役割分担を通し、保育者間における連携について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
＜準備学習＞資料・参考図書・関連するガイドラインを読み、演習内容について理解する。技術演習については、演習内容をイメージしておく。グループ学習では正しい知識を提供できるよう準備しておく。1時間。※日頃から清潔な身だしなみ・手洗いを心がけ、自分自身の健康管理を行う。物品の整理整頓ができるようにしておく。
＜事後学修＞演習を振り返り、保育の場における対応や保育者の役割についてまとめる。「子どもの健康や安全」に関する新聞記事を考察し授業期間内に提出。1時間。※欠席した場合は授業内容について自己学習し提出する。

評価方法
演習への参加態度50%、課題レポート30%、確認テスト20%
グループでの協調性も評価点に加味する。演習時の身だしなみが不適切および忘れ物がある場合は演習に参加できない。

教科書	参考図書
資料を配布します。	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、他授業時に説明します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オリエンテーションで、演習内容（演習室の使い方や使用物品も含む）・身だしなみ・必要物品・注意点等を詳しく説明します。授業開始時間には身だしなみを整えて着席すること。授業の前後の時間に質問等の対応をします。

01	オリエンテーション、手洗い演習
02	バイタル測定、身体計測
03	小児救急演習①応急手当
04	小児救急演習②心肺蘇生法
05	感染症対策、感染性嘔吐物の処置方法（演習）
06	事故防止・安全対策の実際
07	災害への備え
08	まとめ、確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習Ⅰ（事前・事後指導）	担当者:小川　絢子,神谷　妃登美,小柳　雅子,中川　晶子,小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　教育実習Ⅰは、保育科の3つのディプロマポリシーの修得に向けた重要な実践学習の場であり、本科目はその実習を行うための準備や事後学習を目的とすることから、3つのディプロマポリシー全てに大きく関連する。履修系統図では「教育・保育実習」という分類に配置され、保育現場に触れることで保育職を目指す上での自己課題を認識し、主体的な学習の原動力を得ることを目指している。
　実習は、事前指導、実習、事後指導の三つから構成されている。この授業では、実習の概要について整理をするとともに、教育実習Ⅰに望むために必要な準備と心構

授業の到達目標
(1) 学外実習の概要を知るとともに、教育実習Ⅰの意義・目的を理解する。
(2) 教育実習Ⅰの内容を理解し、自らの課題を明確にする。
(3) 教育実習Ⅰにおける子どもへの関わり方、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
(4) 教育実習Ⅰにおける観察、参加、記録の方法や内容について理解するとともに、保育教材の作成や活用の仕方を身につける。
(5) 実習終了後の総括と自己評価により、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　実習での活動は他の科目における学修内容が基礎となることから、全ての履修科目について復習を行うなどして知識・技能の定着を図っておく必要がある。また、日ごろから子どもに関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくことが望ましい。

評価方法
　授業への取り組み状況（40%）、提出課題（40%）、発表（20%）を総合して評価する。
　到達目標(1),(3)については、授業態度やコメントシート等による授業への取り組み状況から評価する。
　この科目は教育実習Ⅰを実施するのに欠かせない科目のため、原則として全ての時間に出席することが単位認定の最低条件となる。

教科書	参考図書
「実習ハンドブック」、「実習の手引き」（名古屋短期大学実習委員会編）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　資料の提示やレポート等の提出をMoodleで行うことがある。この科目及び教育実習Ⅰについての質問や連絡がある場合は、まず教務課実習担当へ申し出ること。

01	学外実習の概要
02	教育実習Ⅰの意義と概要
03	教育実習Ⅰの内容と課題
04	実習の準備と心構え
05	実習記録の書き方
06	児童文化財について、保育教材の活用
07	付属幼稚園によるオリエンテーション
08	実習の総括と自己評価、課題の明確化
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習Ⅰ（付幼）	担当者:小川　絢子,神谷　妃登美,小柳　雅子,中川　晶子,小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育実習Ⅰは、保育科の3つのディプロマポリシーの修得に向けた重要な実践学習の場であり、3つのディプロマポリシー全てに大きく関連する。履修系統図では「教育・保育実習」という分類に配置され、保育現場に触れることで保育職を目指す上での自己課題を認識し、主体的な学習の原動力を得ることを目指している。実習は１年次の５月から１２月までの間で１週間、本学付属幼稚園において、観察と参加を中心として行う。この実習を通して、保育者の仕事の内容や子どもたちの姿を理解し、保育者としての自分の課題を確かめ、実習後の自覚的、自発的

授業の到達目標
① 子どもと共に生活する中で、幼稚園生活を知る。
② 子どもの発達過程と教師の援助を学ぶ。
③ 幼稚園教育に関する様々な知識・技術の必要性を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習の事前指導を始めとして全ての専門科目が実習と関係する。これらの科目で学んだことをしっかりと身に付けておくこと。また、日ごろから体調管理に気をつけるようにする。

評価方法
　実習施設からの評価（80%）と実習記録・レポート（20%）により総合評価する。

教科書	参考図書
『実習の手引き』名古屋短期大学実習委員会『実習ハンドブック』、『実習の手引き』（名古屋短期大学実習委員会）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「教育実習Ⅰ（事前・事後指導）」の全回を受講していない場合は、実習を行えない。分からないことがある場合は、授業担当者または教務課実習担当へ申し出ること。

01	1日目（8時間） 　園長、副園長による実習オリエンテーション 　幼稚園の概要、環境の理解 2日目（8時間） 　観察実習（一日の生活の流れ、子どもの姿） 3日目（8時間） 　観察実習（教師の援助、子ども同士の関わり） 4日目（8時間） 　観察実習・参加実習（個別の子どもへの援助） 5日目（8時間） 　参加実習（個別の子どもへの援助、集団への働きかけ）
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	

26	
27	
28	
29	
30	
31	

科目名:保育実習ＩＡ（事前・事後指導）	担当者:山下　直樹, 上原　隆司, 新沼　英明	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
施設種別・施設別の学習を基礎に、施設実習に向けての基礎を学ぶ。

授業の到達目標
〇施設に入所している児童についての理解を深める。〇施設実習に向けての基礎知識を学び、実習が実り多いものとなるようにする。
〇施設実習に向けて、各自がしっかりした実習計画が立てられるようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ボランティアに積極的に参加することにより、実践力を身につけること。

評価方法
授業の受講態度（３５％）、実習計画書・課題レポート等（４０％）、グループでの話し合いや課題に向き合う態度（３０％）を総合的に評価する。

教科書	参考図書
福祉施設実習の手引き（名古屋短期大学実習委員会作成版）	保育所保育指針解説書・保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
施設実習の事前指導では必要最低限の知識や実習に臨むための技術を学びます。自身が行く施設種別に応じたところでボランティアをすることをお勧めします。

01	オリエンテーション
02	施設実習の意義・実習中のマナー・各種記録物の提出
03	施設別学習①　各施設の概要
04	施設別学習②　自己課題の書き方
05	施設別学習③　実習記録の書き方
06	事前訪問と実習にあたっての注意事項
07	2年生との懇談
08	創作手遊び発表会
09	施設実習直前指導
10	施設実習報告会
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:保育実習Ⅰ（児童福祉施設）	担当者:山下　直樹,新沼　英明	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育所ならびに施設の概要を整理し、実習の目的を理解する。
学内での授業の内容を踏まえ、保育現場において保育を体験的かつ実践的に学ぶ。

授業の到達目標
保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
すでに学んだ教材内容を踏まえ、子どもの保育、保護者との関係について学ぶ。
保育の計画、観察記録の仕方及び、自己評価について具体的に理解する。
保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
付属幼稚園実習やボランティア体験などの気付きや学びを整理して児部員の実習課題を立てること。
子どもの発達について整理し、わからないところを復習すること。
教材や教材の活用の仕方について考え、自分でできることを積極的に進めること。

評価方法
実習園の評価（６０％）、実習に関連する課題（３０％）、実習の振り返りと自己評価（１０％）を総合的に評価する。

教科書	参考図書
福祉施設実習の手引き	保育所保育指針解説書・保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	以下の内容について、学外の児童福祉施設で、8日間の宿泊形式の実習または10日間の通所による実習を実施する。 【施設等における実習内容】 ①　施設の役割と機能について知る（1日の流れ、役割と機能） ②　施設で生活する子どもの理解をする（子どもの観察と記録、個々の状態に援助やかかわり） ③　養護内容や生活環境（計画に基づいた活動や援助・子どもの心身の状態に応じた対応、子どもの活動と生活環境・健康管理と安全対策への理解） ④　計画と記録（支援計画の理解と活用。記録に基づく省察と自己評価） ⑤　専門職としての保育
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育基礎演習	担当者:山下　直樹, 小川　雄二, 近藤　茂之, 高田　吉朗, 高須 裕美, 平野　朋枝, 吉見　昌弘, 小川　絢子, 神谷　妃登美, 太田　昌孝, 小柳　雅子, 上原　隆司, 新沼　英明, 吉田　真弓, 杉山　実加, 青山　裕美, 小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習

免許・資格:	開講時期	通年
	配当学年	1
受講者制限:	単位数	2
	必須. 選択	必須

授業概要と方法
集団による学習や野菜の栽培などの自然活動・ゼミ旅行やゼミ合宿を行います。学生は、保育基礎演習に主体的に取り組み、挿画に交流や学修を行います。

授業の到達目標
(1)保育学生・社会人としての基礎的学修、生活態度及び感性を身につける。
(2)集団での学修を通し、役割と協力意識を高める。
（3）研究のための基礎能力の育成の3つの柱をもとに、「保育科セミナー」「個別ゼミ」「学内での芋などの植物の栽培」「合同・共同企画」「児童文化鑑賞会」「修了レポート」などの活動を通して、大学生としての、また保育者・社会人としてのいくつかの能力や態度を身につけていくことを目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
学内外を問わず、様々な活動に参加しますので、主体的に参加してください。

評価方法
授業への参加態度（出席状況を含む）、発表内容、レポートなどを総合的に評価する。

教科書	参考図書
適宜紹介します。	保育所保育指針、幼稚園教育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
短い学生生活において保育者としてのあらゆる知識や技能を身につけるためには、毎回の授業への積極的参加が必須条件であるといえます。
基礎演習では保育者はもちろん、一人の社会人として自立するためには何が必要で、何を学べばいいのか考えていきます。単に教員から与えられた情報や課題をこなすだけでは十分ではありません。常に積極的な態度で自らを発信していくことが望ましいといえるでしょう。

01	保育科ゼミ・セミナーガイダンス
02	保育科セミナー（個別ゼミⅠ）
03	保育科セミナー（個別ゼミⅡ）
04	保育科セミナー（個別ゼミⅢ）
05	個別ゼミ（各ゼミごとに活動内容は異なる）
06	個別ゼミ（ゼミごとに図書館入門）
07	個別ゼミ(保育実践演習)
08	個別ゼミ（保育実践演習）
09	個別ゼミ（保育実践演習）
10	研究法入門Ⅰ（修了レポート作成のため）
11	個別ゼミ（ゼミごとに個別面談）
12	個別ゼミ（ゼミごとに個別面談）
13	個別ゼミ（ゼミごとに個別面談）
14	個別ゼミ（修了レポートテーマ指導）
15	個別ゼミ（修了レポートテーマ登録）
16	個別ゼミ
17	個別ゼミ
18	個別ゼミ
19	合同企画「研究法入門Ⅱ」
20	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
21	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
22	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
23	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
24	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
25	合同企画「2年ゼミ編成ガイダンス・進路を考える」
26	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
27	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
28	修了レポート提出
29	個別ゼミ（1年間のまとめ）

30	個別ゼミ（1年間のまとめ）
31	